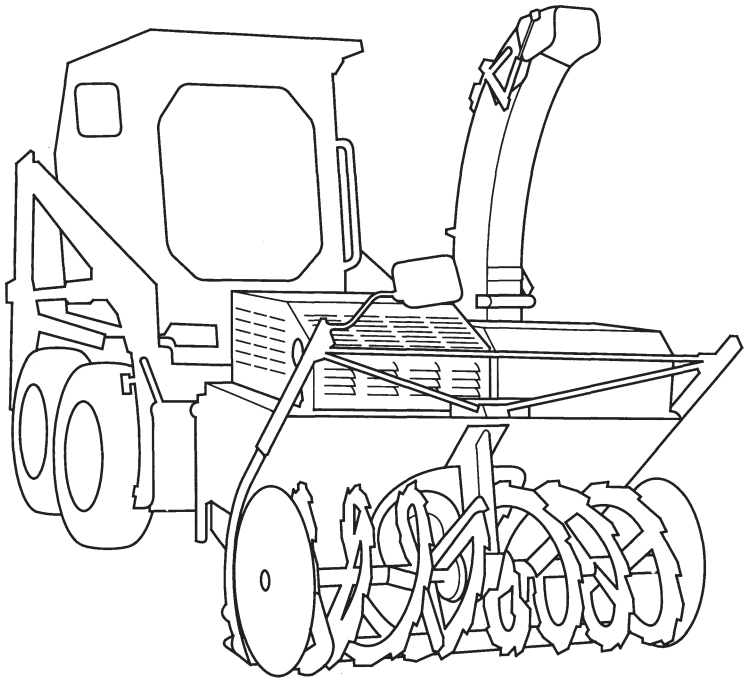
ホンダ 乗用除雪機

HSL2012

取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。

ホンダ乗用除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

—除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

—除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

—紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはホンダ汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、除雪機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
HSL2012(除雪部)を操作する前に、本書とボブキャット ローダー553(車体部)の取扱説明書を良くお読みいただき十分理解してからご使用ください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
・保証書は良くお読みいただき裏面の商品受領書サイン欄にご署名の上、大切に保管してください。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう …… 4

●安全ラベル …… 8

各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 11

エンジン スイッチ …… 14

チョーク スイッチ …… 15

緊急停止スイッチ …… 15

除雪クラッチ スイッチ …… 16

ステアリング レバー …… 17

シュータ コントロール スイッチ …… 18

作業灯スイッチ …… 19

警報器(ホーン)スイッチ …… 19

リフト アーム ペダル(左側) …… 20

チルト ペダル(右側) …… 20

回転計(除雪部エンジン) …… 21

エンジン オイル警告灯 …… 21

パーキング ブレーキ …… 22

ミラー …… 22

雪かき棒 …… 23

シュート カバー …… 23

ソリ・スクレーパ …… 24

燃料計 …… 24

作業機の脱着 …… 25

バケットの取外し …… 25

除雪部の取付け …… 27

けん制ロッドの取付け、取外し …… 30

タイヤ チェーンの取付け …… 31

エンジンをかける前に点検しましょう …… 33

ボンネットの開けかた、閉めかた …… 33

サイド カバーの取外し、取付け …… 34

ガソリンの点検 …… 35

エンジン オイルの点検 …… 36

エア クリーナーの点検 …… 38

バッテリの点検 ……39
オーガ、ブロア ロック ボルトの点検 ……40
除雪クラッチ スイッチの点検・シート バー スイッチの点検 ……41
その他の点検 ……41
エンジンのかけかた ……42
運転操作のしかた ……44
1．ソリの調整 ……45
2．除雪部の高さと傾きの調節 ……46
3．始動 ……48
4．運転操作 ……49
5．除雪のしかた ……50
除雪部の止めかた ……53
定期手入れを行いましょう ……55
日常点検 ……55
定期点検 ……56
やさしい点検・整備 ……57
エンジン オイルの交換 ……57
エア クリーナの清掃 ……59
点火プラグの清掃、調整 ……62
バッテリ ……64
フューエル ストレーナの点検 ……66
除雪部の点検 ……67
ヒューズについて ……68
各部の作動点検 ……69
運搬するときは ……70
長期間使用しないときの手入れ ……72
故障のときは ……75
主要諸元 ……76
配線図 ……77

安全にお使いいただくために

警告

・あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

・この取扱説明書と車体部の取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
・過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
・間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
・エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(33～41頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
・悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
・適切な指示なしでは誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
・カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
・本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
・本機は私有地でご使用ください。
・除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



・作業する時は防寒用の身仕度をし、くつはすべり止めのあるものを使用してください。

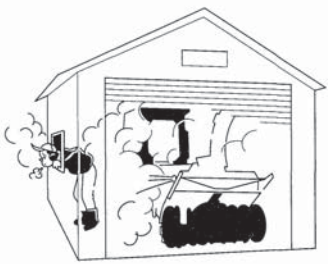
これだけはぜひ守りましょう

警告

・砂利道等の除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
・定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は行わないでください。
・除雪部の燃料はガソリンです。ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ず車体部と除雪部のエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
・燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
・燃料をこぼさないように注意し、上限を越えないように補給し燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



・屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。



・屋根に積もった雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

警告

●作業中の注意

・除雪機を運転するときは、必ずシート ベルトを着用し、シート バーをセットしてください。シート ベルトやシート バーは万一、転倒などの事故が発生した場合に運転者の被害を軽減するものです。
・除雪部は回転しており大ケガをするおそれがあるので、手足等を近づけないようにしてください。また作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
・除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足等を近づけないでください。
・投雪方向を直接人等に向けたり、窓ガラスに向けて使用しないでください。投雪方向の調節はそのたび適切に行ってください。
・万一、雪の中に石等の異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
・除雪部および投雪口に雪が詰まったときは、車体部と除雪部のエンジンを停止し、オーガが停止していることを確認してから備え付けの雪かき棒で取除いてください。大ケガをするおそれがあるので除雪部や投雪口に手を入れないでください。



・急発進は行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ずステアリング レバーを中立の位置にしてから除雪部のエンジンを始動し、徐々にステアリング レバーを操作してください。
・移動するときは、除雪部を路面や障害物に当らない最も低い位置まで下げてください。除雪部を高く上げて走行すると、除雪機が不安定になり転倒するおそれがあります。

警告

・雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。堆積した雪上には登ぼらないでください。また方向を転回するときは周囲に注意し、本機を水平にし、十分速度を落として行ってください。特に後進時には、後方に十分注意してください。
・共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招く事があります。
・除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ キャップを取外し(62頁参照)、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
・除雪の速度に注意し過負荷にならないようにしてください。エンジンに悪影響を与えます。

●作業が終わったら

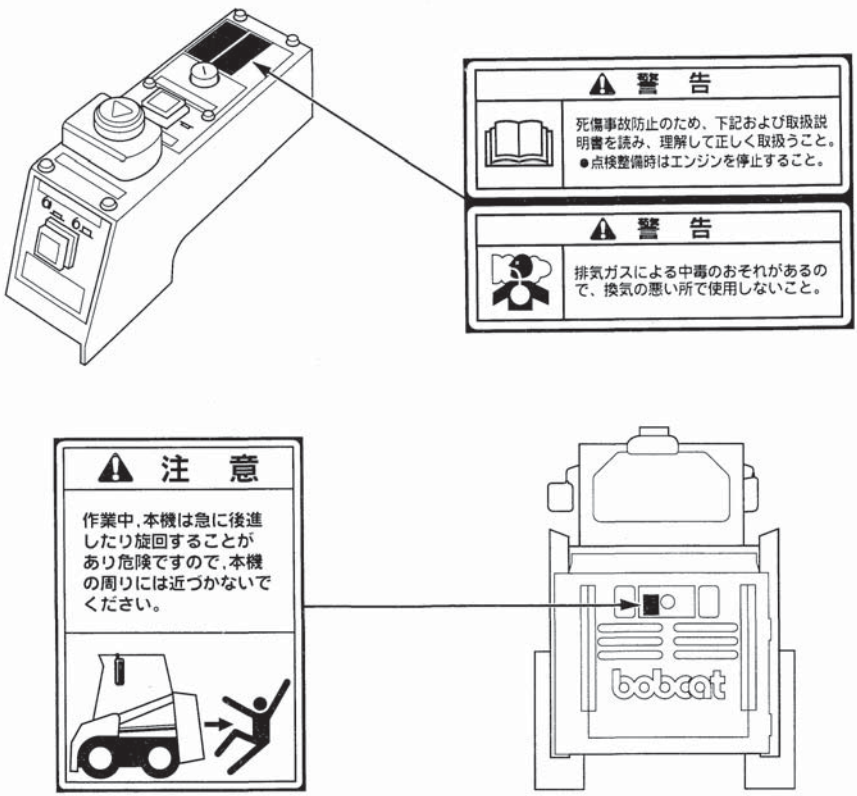
・本機から離れるときには、必ず車体部と除雪部のエンジンを止め、エンジン スイッチ キーを外してください。いたずらなどで本機が動き出し、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
・長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のある所には保管しないでください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンク等に保管してください。
・各部点検で本機に触れる際は、必ずエンジンを停止し、各部が冷えるまで十分に時間をおいてください。
・各部の点検でボンネットを開けるときは、必ずエンジンを停止し、火傷の恐れがありますので各部が冷えるまで充分時間をおいてから開けてください。
・ボンネットを開けたときは、必ず保持棒(ステー)を正規の状態にセットしてください。
・点検時、マフラに直接触れないように、注意してください。
・ボンネット内に、工具、燃えやすい物等を置き忘れないように注意してください。工具は必ず所定の場所に収納してください。
・作業時以外は、必ず除雪部を完全に路面まで下げておいてください。
・作業後は除雪部の雪を取り除いて格納してください。残った雪が凍結し、次の使用に支障があるばかりでなく、故障の原因にもなります。

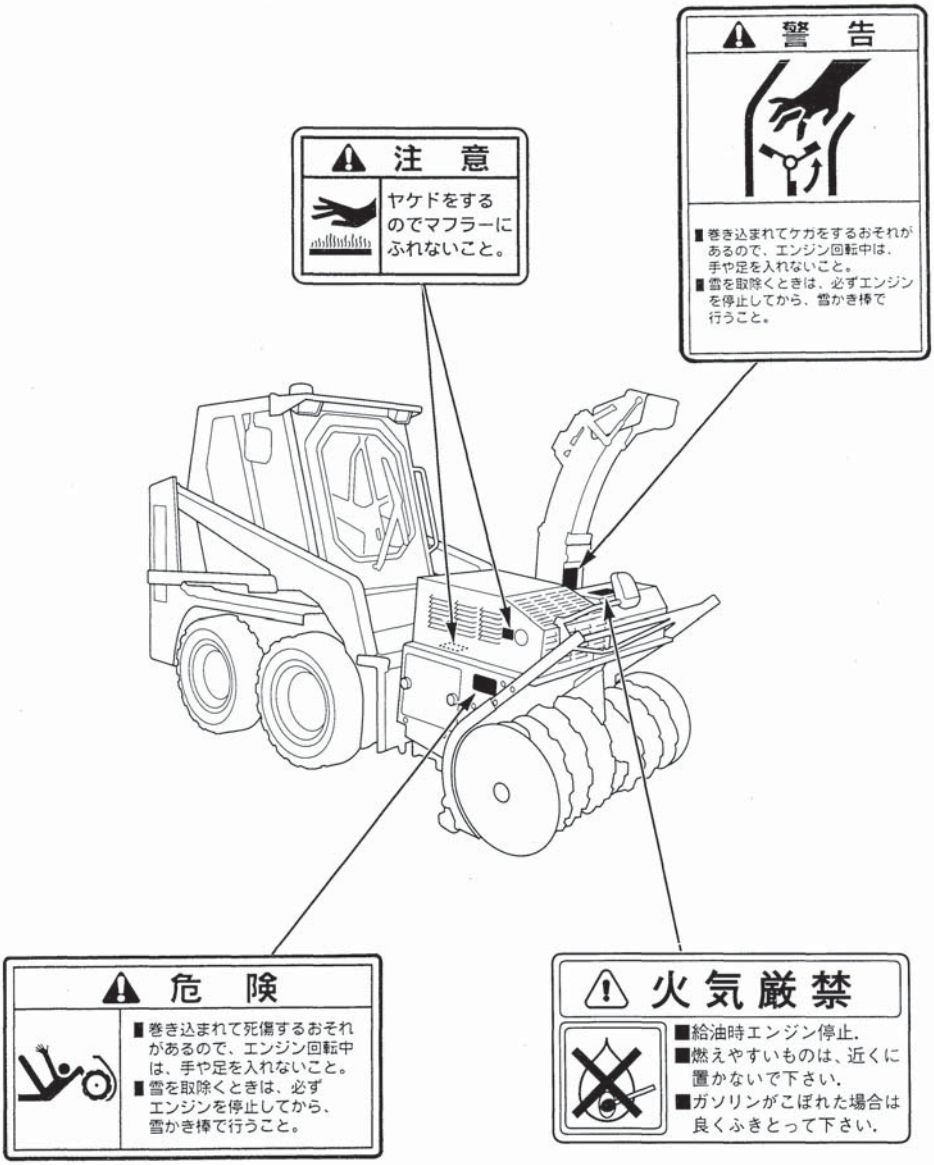
●安全ラベル

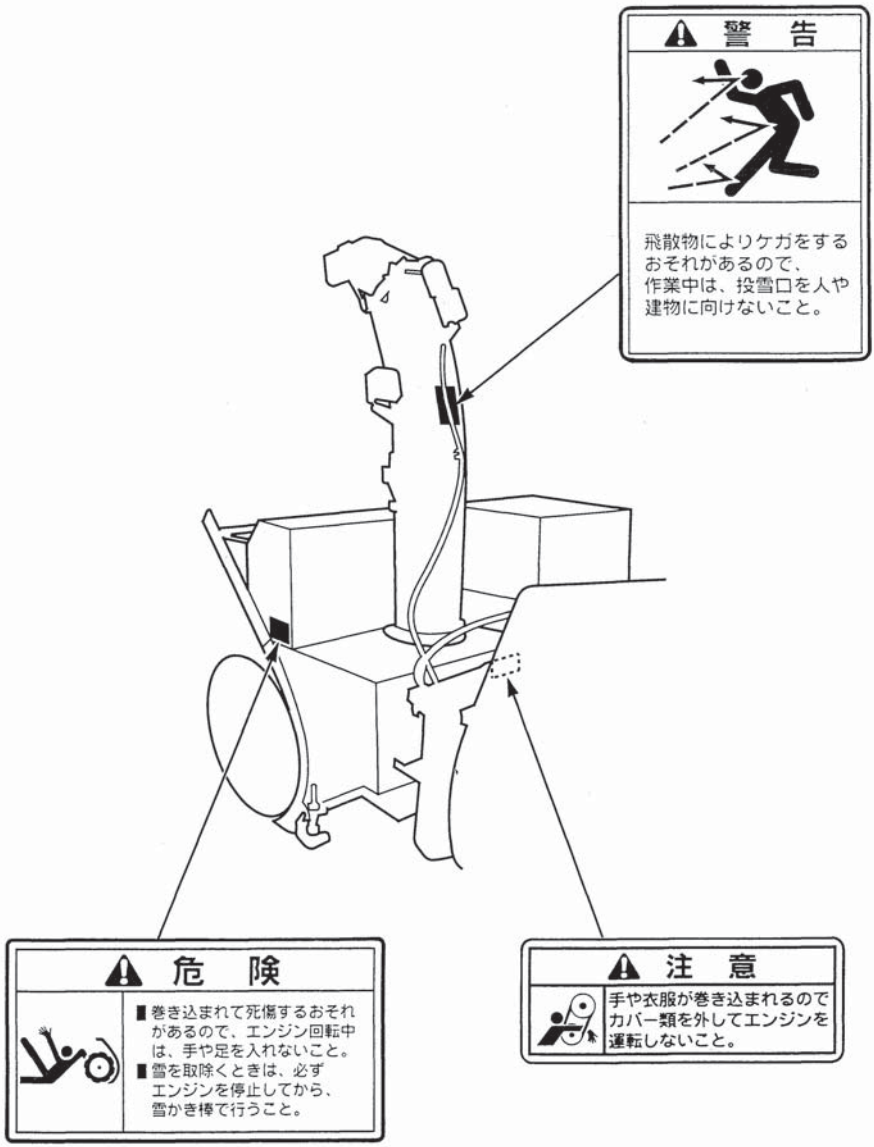
除雪機を安全に使用していただくため、**安全ラベル**が貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

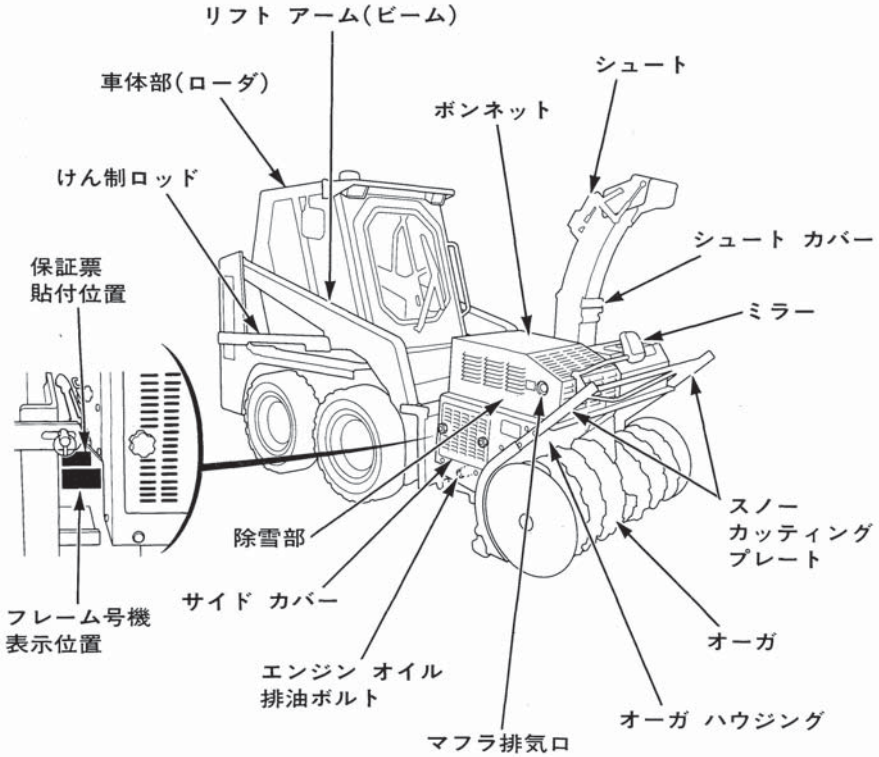
除雪機に貼ってあるラベルが、汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

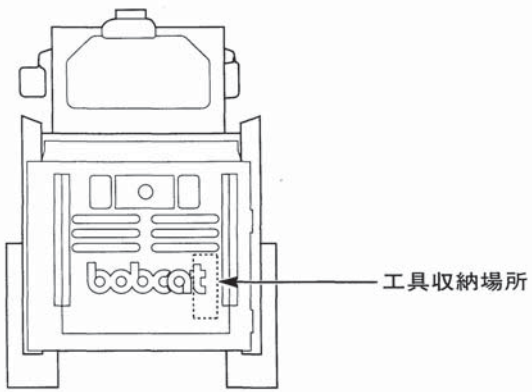



⚠ 警　告
■巻き込まれてケガをするおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
⚠ 注　意
ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。
⚠ 危　険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
⚠ 火気厳禁
■給油時エンジン停止.
■燃えやすいものは、近くに置かないで下さい.
■ガソリンがこぼれた場合は良くふきとって下さい.

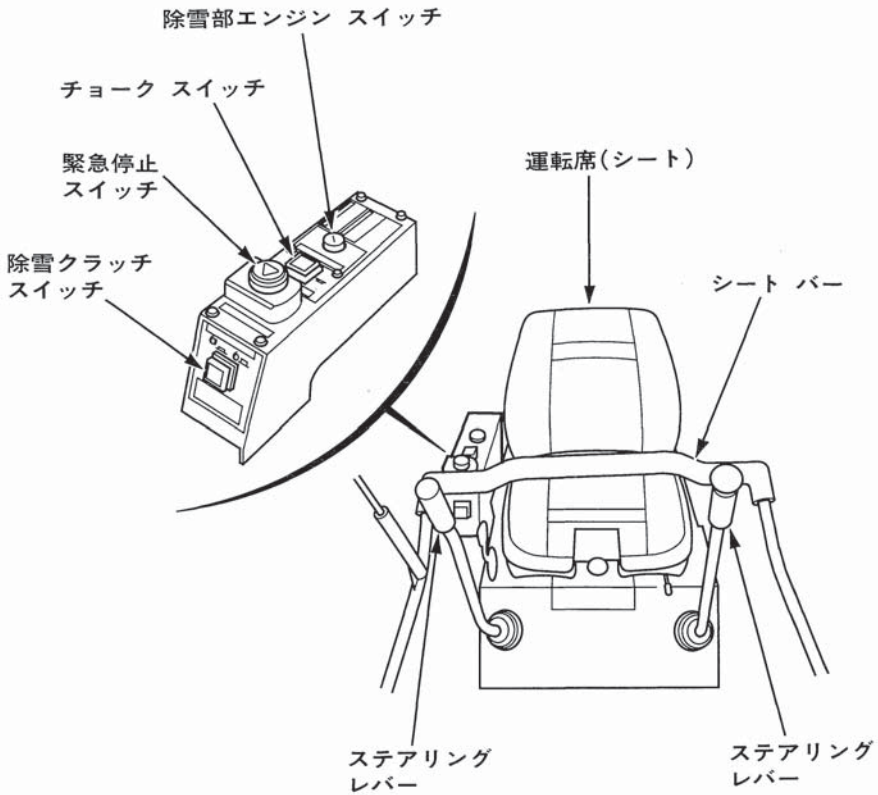

警　告
飛散物によりケガをするおそれがあるので、
作業中は、投雪口を人や建物に向けないこと。
危　険
■巻き込まれて死傷するおそれがあるので、エンジン回転中は、手や足を入れないこと。
■雪を取除くときは、必ずエンジンを停止してから、雪かき棒で行うこと。
注　意
手や衣服が巻き込まれるのでカバー類を外してエンジンを運転しないこと。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

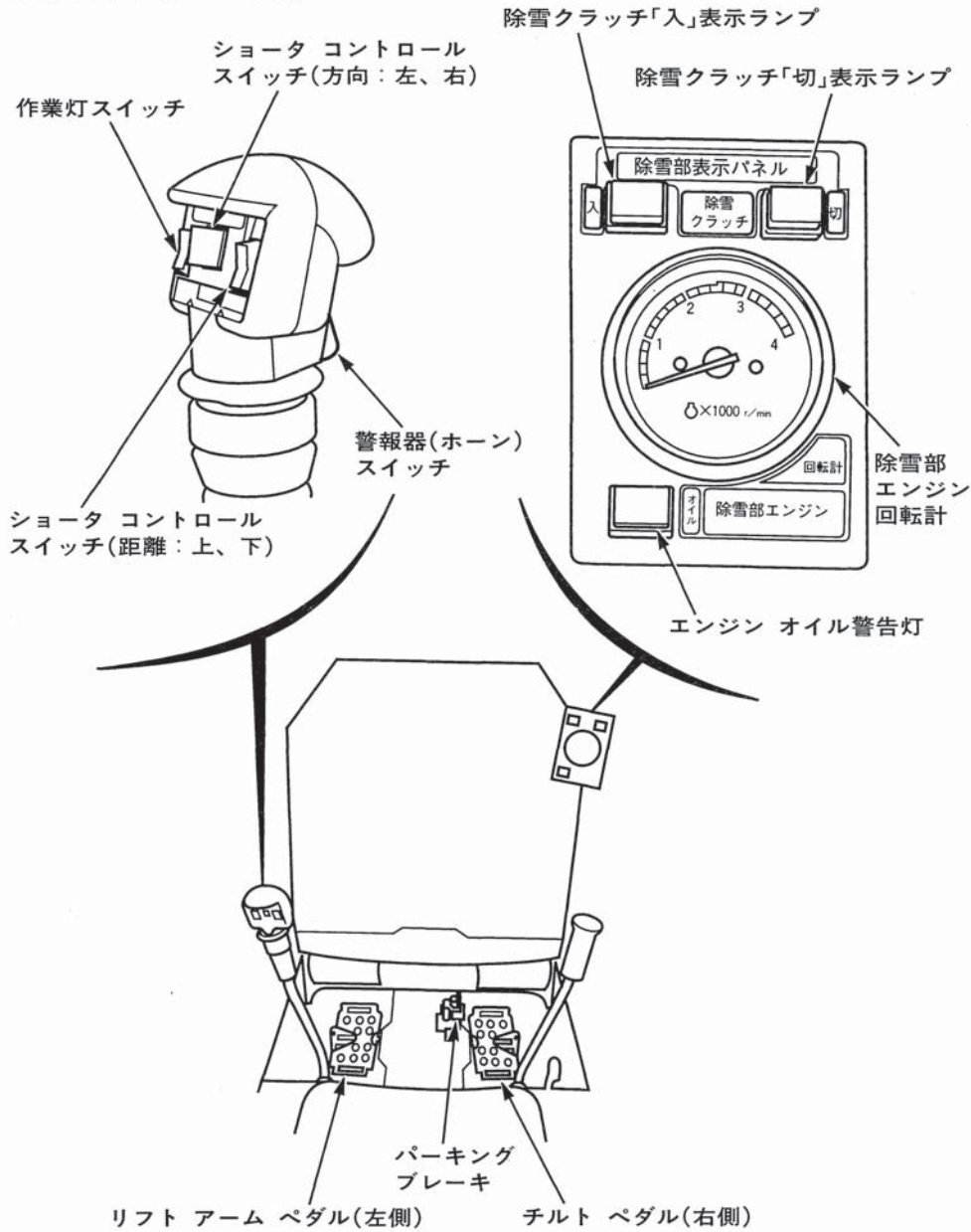




車体部(キャビン内)


除雪部エンジン スイッチ
チョーク スイッチ
緊急停止
スイッチ
除雪クラッチ
スイッチ
運転席(シート)
シート バー
ステアリング
レバー
ステアリング
レバー

車体部(キャビン内)


除雪クラッチ「入」表示ランプ
ショータ コントロール
スイッチ(方向：左、右)
除雪クラッチ「切」表示ランプ
作業灯スイッチ
除雪部表示パネル
入
除雪
クラッチ
切
1
2
3
4
×1000 r/mn
回転計
オイル
除雪部エンジン
警報器(ホーン)
スイッチ
除雪部
エンジン
回転計
ショータ コントロール
スイッチ(距離：上、下)
エンジン オイル警告灯
パーキング
ブレーキ
リフト アーム ペダル(左側)
チルト ペダル(右側)

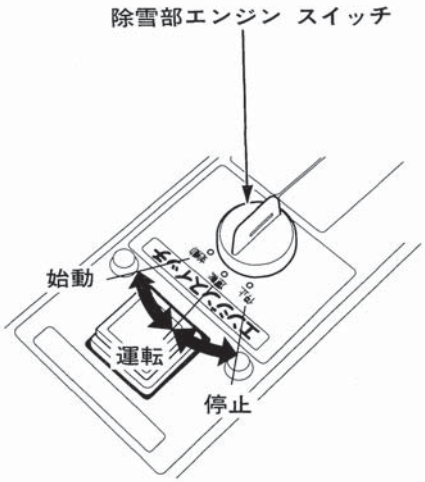
除雪部エンジン スイッチ

除雪部のエンジンを始動、運転、停止させるときに操作します。

停 止…エンジンを停止する位置です。（キーの抜き取り、差しこみができます。）

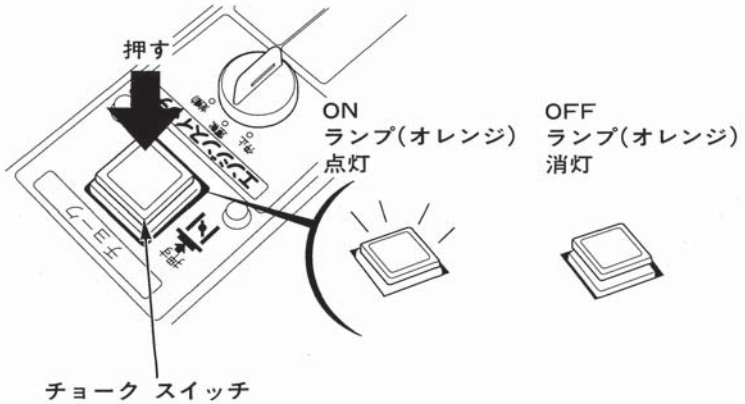
運 転 …エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

始 動 …エンジンを始動させるときこの位置まで回します。スタータ モータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に〝**運転**〞の位置に戻ります。



チョーク スイッチ

除雪部エンジンの始動時、エンジンが冷えているときに操作します。
スイッチを押すとチョークが作動し、オレンジ色のランプが点灯します。もう一度押すとチョークが解除されて、ランプが消えます。

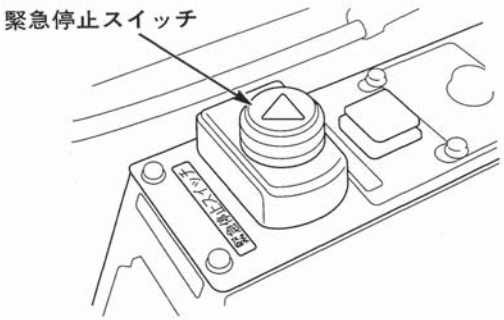


緊急停止スイッチ

緊急にオーガの回転を停止するときに使用します。緊急停止スイッチを押すと除雪部のエンジンが停止し、オーガも停止します。

取扱いのポイント

- **緊急時以外は、使用しないでください。**
- **再始動する場合は、シート バーをセットし、除雪クラッチ スイッチを〝切〟にしてエンジンを始動してください。**



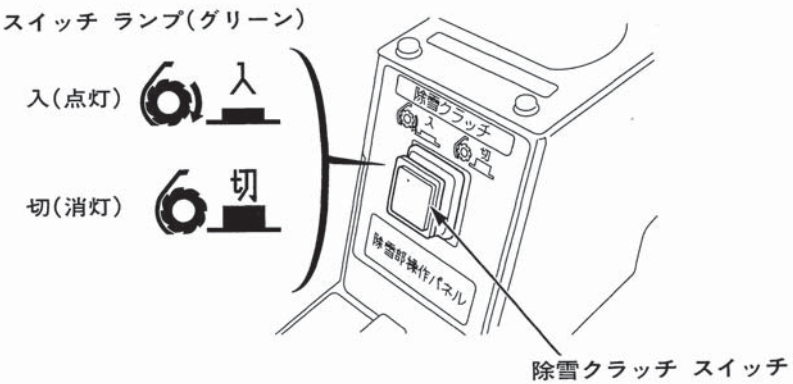
除雪クラッチ スイッチ

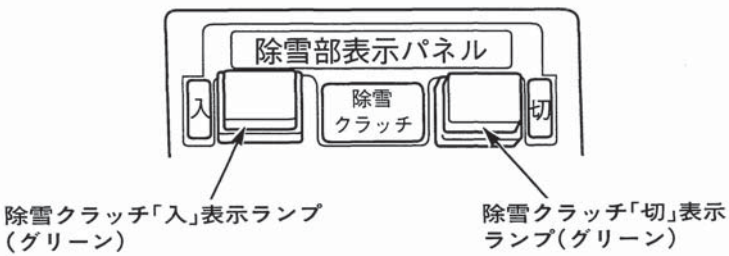
除雪クラッチ スイッチ(ランプ付)を押すことによってオーガとブロアが回転したり、回転が止まります。スイッチは押し続ける必要はありません。

除雪クラッチ スイッチ〝**入**〟：オーガとブロアが回転します。
スイッチのランプ(グリーン)と除雪部表示パネルの除雪クラッチ「入」表示ランプ(グリーン)が点灯します。

除雪クラッチ スイッチ〝**切**〟：オーガとブロアが数秒後に止まります。
スイッチのランプ(グリーン)が消灯し除雪部表示パネルの除雪クラッチ「切」表示ランプ(オレンジ)が点灯します。

・ランプが正常に表示しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。





ステアリング レバー

除雪機を前進、後進および旋回させるときに操作します。

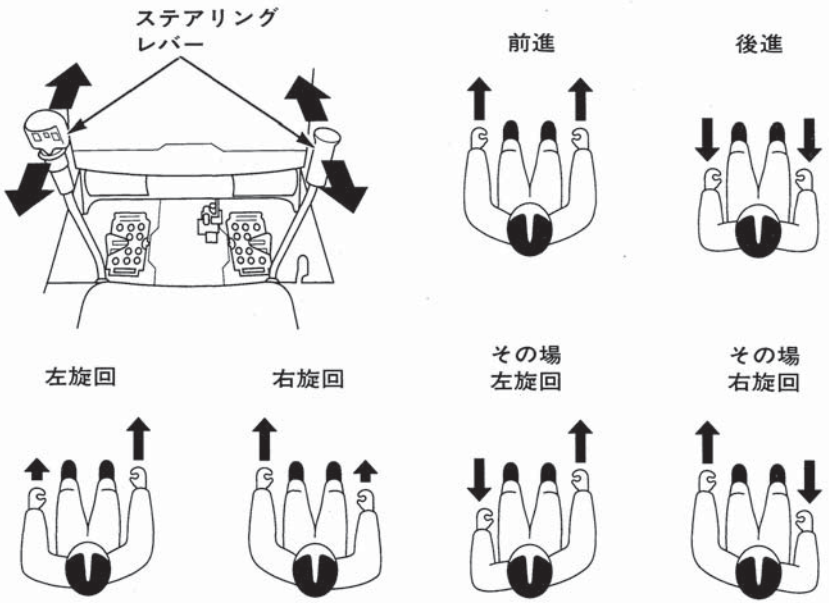
・詳しい取扱いは、車体部の取扱説明書の運転操作説明の章を参照してください。

前進：両方のレバーを前方に押してください。

後進：両方のレバーを手前に引いてください。

通常の旋回：いずれかのレバーを他方よりも前方に押してください。

その場旋回：いずれかのレバーを前方に押し、他方のレバーを手前に引いてください。

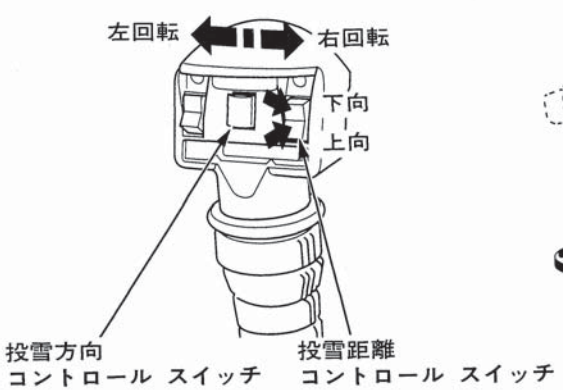


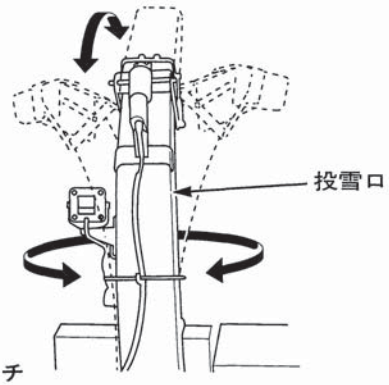
取扱いのポイント

ステアリング レバーはゆっくりと滑らかに操作してください。レバー操作は少し動かすだけで十分です。

シュータ コントロール スイッチ

投雪距離と方向を変えるときに操作します。
除雪部のエンジン スイッチを〝**運転**〟の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。
シュータ コントロール スイッチは除雪部のエンジンが運転しているときに操作してください。除雪部のエンジンが停止しているときに操作するとバッテリが消耗します。



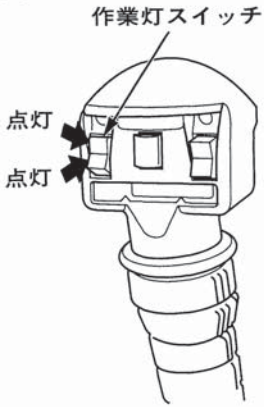


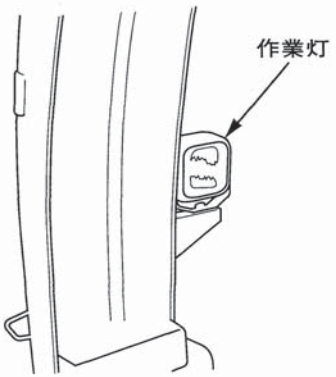
取扱いのポイント

シュータ コントロール スイッチを操作したまま保持しないでください。リレー、モータ、バッテリなどの故障の原因になります。

作業灯スイッチ

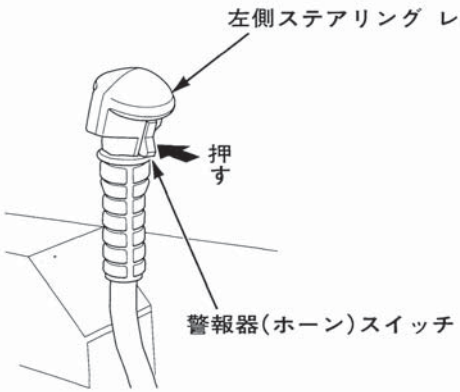
作業灯を点灯、消灯するときに操作します。
除雪部のエンジン スイッチを"**運転**"の位置にし、スイッチを上側または下側へ押す(ON)ことによりシュータ上の作業灯が点灯します。
作業灯スイッチは、除雪部のエンジンが運転しているときに操作してください。除雪部のエンジンが停止しているときに作業灯を点灯するとバッテリが消耗します。





警報器(ホーン)スイッチ

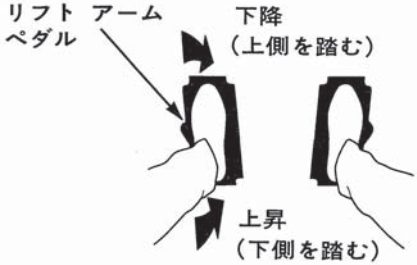
スイッチを押すと警報器(ホーン)が鳴ります。
・車体部のメイン スイッチを"**ON**"の位置にしないとホーンは鳴りません。

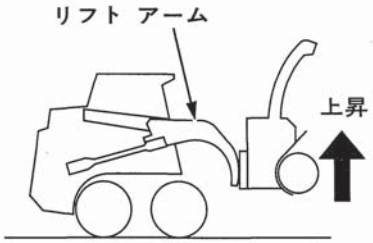


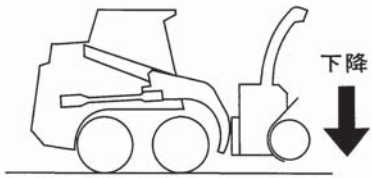
リフト アーム ペダル(左側)

除雪部の高さを調節するときに操作します。

リフト アーム ペダル(左側)でリフト アームの油圧シリンダをコントロールして、除雪部を上、下させます。ペダルの下側(かかと)を踏むと除雪部が上昇します。ペダルの上側(つま先)を踏むと除雪部が下降します。





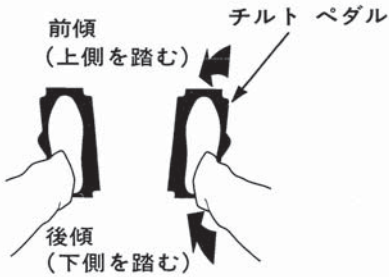


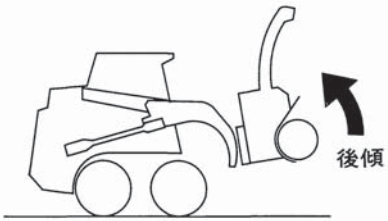
チルト ペダル(右側)

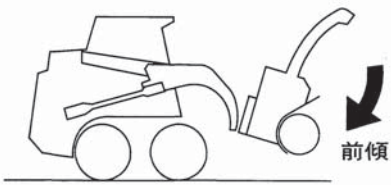
除雪部の傾きを調節するときに操作します。

チルト ペダル(右側)は、チルト用油圧シリンダをコントロールして、除雪部を、前傾、後傾させます。

ペダルの下側(かかと)を踏むと除雪部が後傾します。ペダルの上側(つま先)を踏むと除雪部が前傾します。

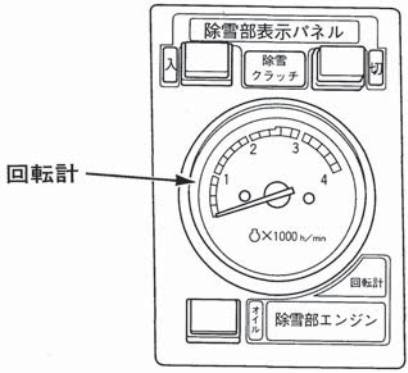






回転計(除雪部エンジン)

除雪部エンジンの１分間あたりの回転数を表示します。
除雪作業は回転計の目盛表示が広く(太く)なっている回転数の範囲で使用するようにしてください。



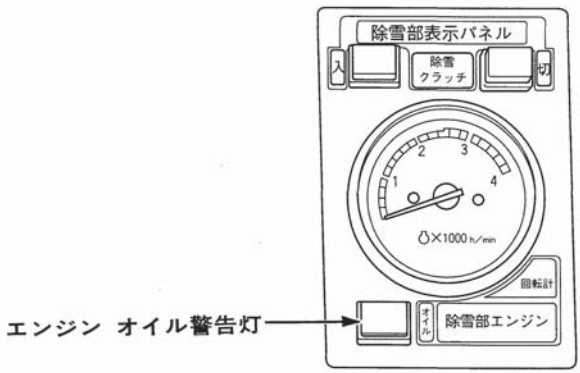
エンジン オイル警告灯

除雪部エンジンの潤滑系統に異常が発生したときに点灯します。エンジン スイッチを**"運転"**にすると点灯し、エンジン始動後、消灯すれば正常です。

・万一、運転中に点灯した場合は、安全な場所に移動してエンジンを停止し、エンジン オイル量を点検してください。

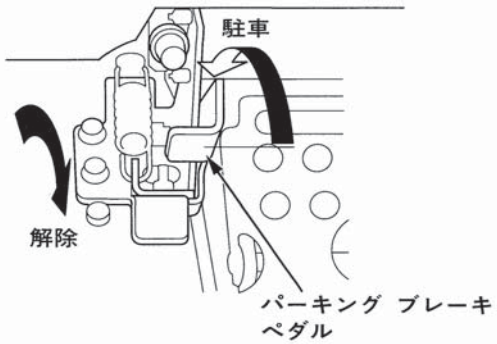
取扱いのポイント

エンジン オイル量が正常で、運転中に警告灯が点灯する場合は、除雪作業を中止してください。お買いあげ販売店で点検を受けてください。



パーキング ブレーキ

本機を駐車するときに操作します。
ペダルを前方に踏むと、パーキング ブレーキがかかります。ペダルを後方に戻すと、パーキング ブレーキは解除されます。
ペダル操作は〝**駐車**〟、〝**解除**〟の位置になるように確実に行ってください。

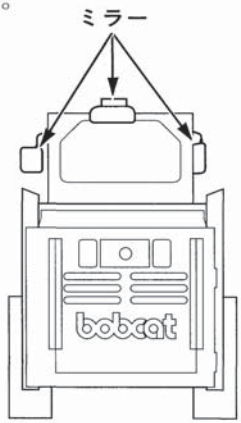


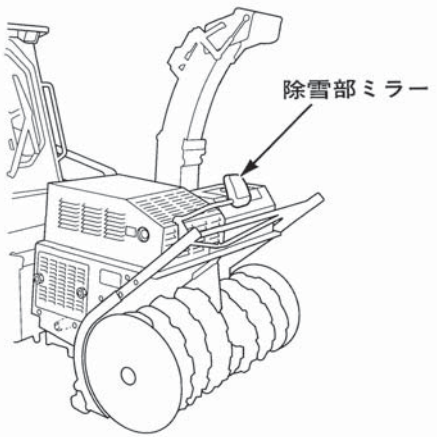
⚠警告

走行中にパーキング ブレーキを操作しないでください。転倒するおそれがあります。

ミラー

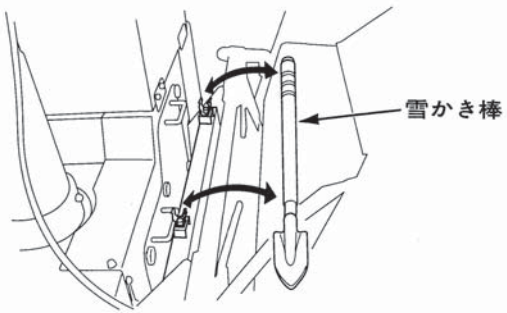
安全確認のために車体部(３個)、除雪部(１個)にミラーが装備されています。
除雪部のミラーはオーガに障害物や異物がかみこまないように監視するためのミラーです。





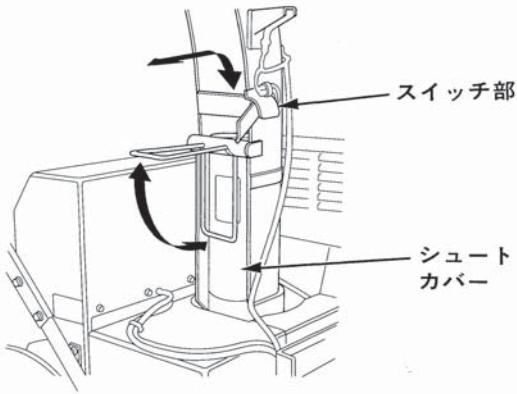
雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰ったときに使用します。
雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。



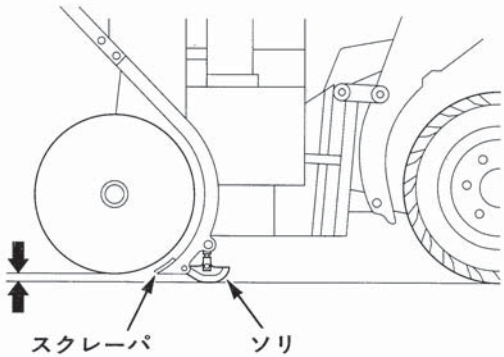
シュート カバー

投雪口に雪が詰まったときは、シュート カバーを外して雪かき棒で詰った雪を除去してください。
除去後、シュート カバーを確実にセットしてください。
セットされていないと、エンジンが始動しない機構になっています。



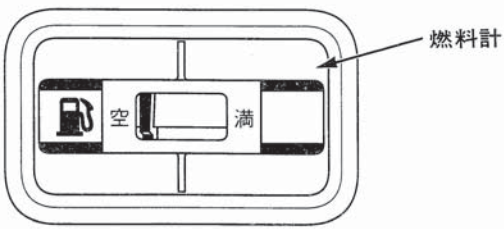
ソリ・スクレーパ

除雪する路面の状態に合わせてソリの調節をしてください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパは除雪面をならします。調節のしかたは、45頁を参照してください。



燃料計

燃料タンク内の燃料の量を表示します。
燃料計の針が"**空**"に近づいたら早めに燃料を補給してください。



作　業　機　の　脱　着

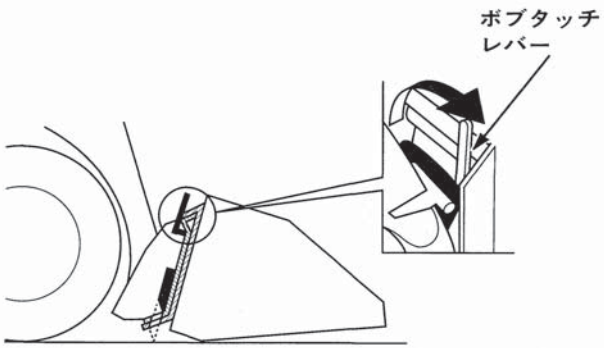
⚠警告

- 作業機の脱着作業は、平坦な場所で周囲の安全を確認してから行ってください。
- 運転席から離れるときは
  - 作業機を後傾させて、地面に水平になるように下降させてください。
  - 車体部のエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを抜いてパーキングブレーキをかけてください。

バケットの取外し

1．本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止します。

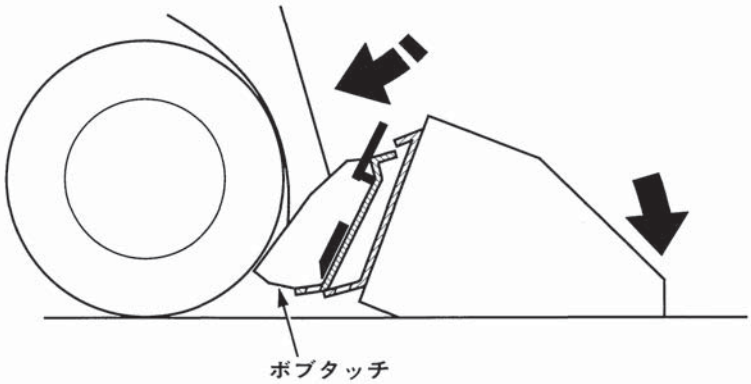
2．左右のボブタッチ レバーをロックの位置からゆっくり引き上げ、くさびの部分をバケットから解除します。



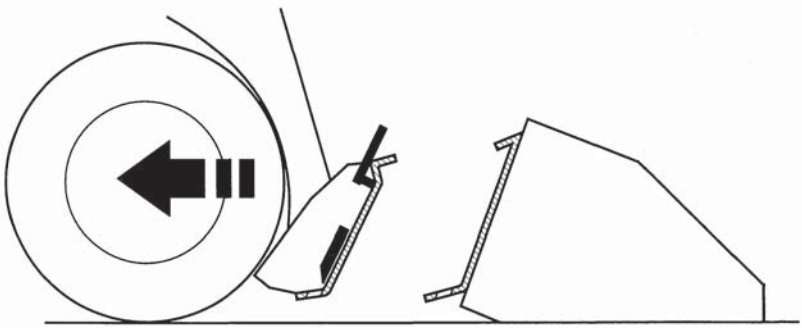
⚠注意

ボブタッチ レバーには、強いスプリングがセットされています。レバーを確実に握り、ゆっくり引き上げてください。

3．エンジンを始動し、バケットを前傾させ完全に接地させます。

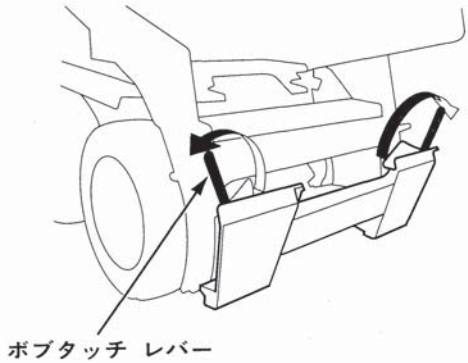


4．ボブタッチ部を更に前傾させ、車体部(ローダ)を後退させ、バケットから離します。



除雪部の取付け

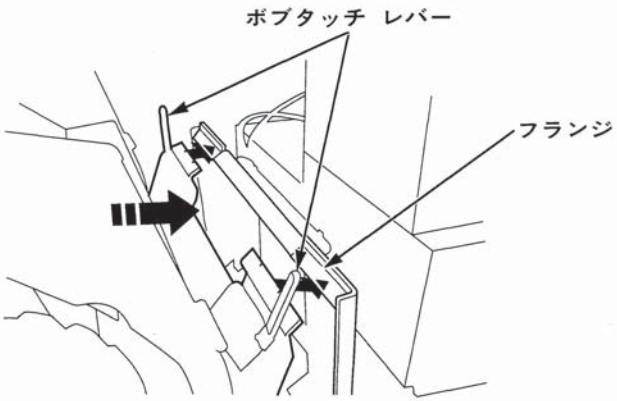
1．車体部(ローダ)の左右のボブタッチ レバーを引き上げます。



⚠注意

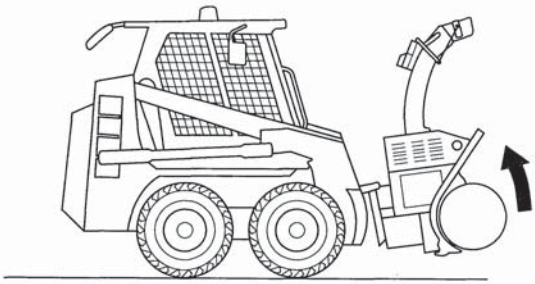
ボブタッチ レバーには、強いスプリングがセットされています。レバーを確実に握り、ゆっくり引き上げてください。

2．ボブタッチ部を下降、前傾させてボブタッチの上端が除雪部のフランジの真下にくるように車両部(ローダ)を前進させます。

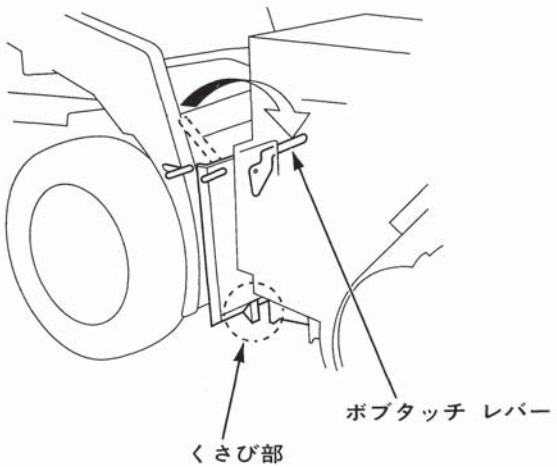


・ボブタッチ レバーを除雪部にあてないように注意してください。

3．ボブタッチの上端が除雪部のフランジの真下にあることを確認し、除雪部が地面から離れるまでボブタッチ部を後傾させ、エンジンを停止します。



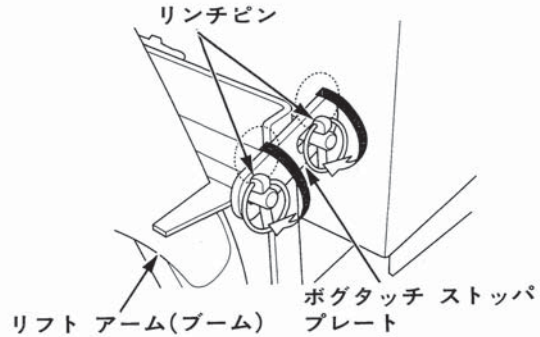
4．左右のボブタッチ レバーをロック位置まで押し下げます。



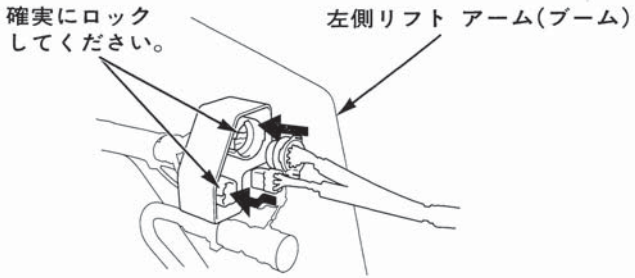
⚠警告

くさびの部分が確実に除雪部の穴にロックされていることを確認してください。完全にロックされていないと、除雪部が外れて事故の原因になります。

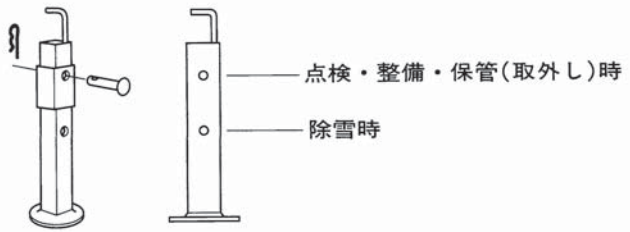
5．左右のボブタッチ ストッパ プレートをセットします。リンチ ピン２本で確実にロックしてください。



6．左側リフト アーム(ブーム)の横にあるコントロール ケーブル(電気配線)カプラを接続します。



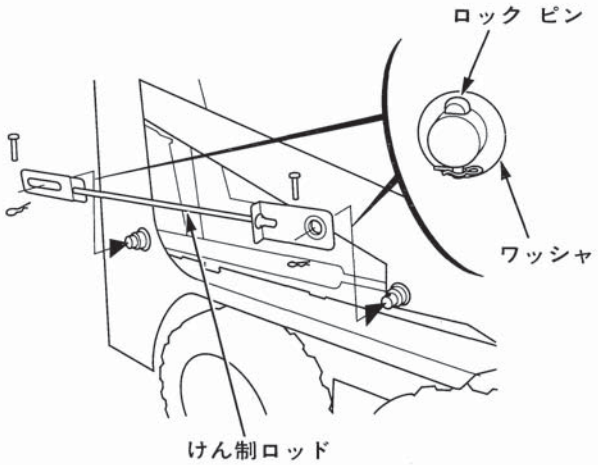
7．左右の除雪部転倒防止棒の位置を除雪時に変えます。



・除雪部の取外しは、取付けの逆の手順で行ってください。

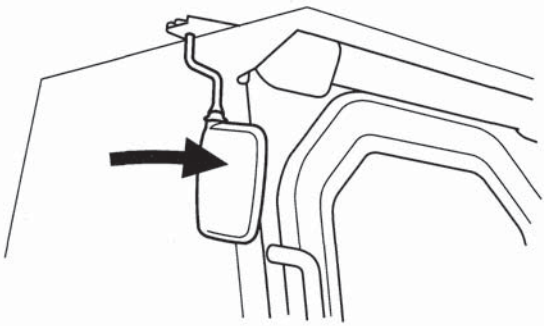
けん制ロッドの取付け、取外し

1．けん制ロッドを取付けます。脱落しないように確実にロック ピンを固定してください。



2．ローダーとして使用するときは、けん制ロッドを取外します。取外しは、ロック ピン、ワッシャを外してけん制ロッドを取外してください。

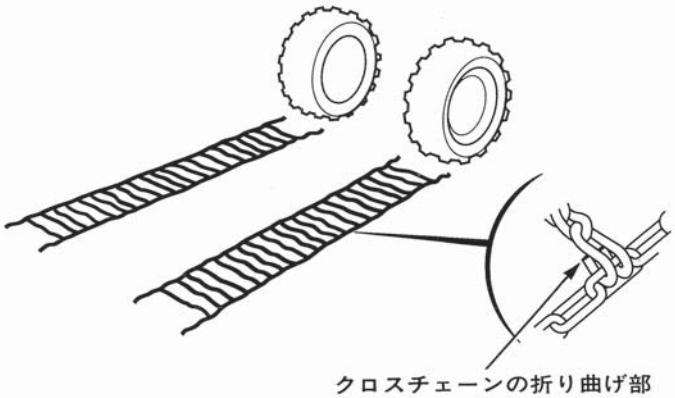
・リフト アーム(ビーム)を上昇させたときにミラーに当たらないように必ず左・右のミラーを格納してください。



タイヤ チェーンの取付け

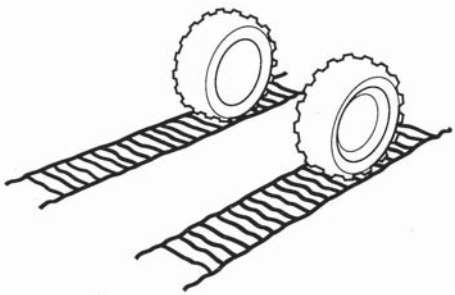
1．除雪部を車体部から取外します。

2．クロス チェーンの折り曲げ部が下側になるようにしてチェーンを車輪のすぐ前に置きます。

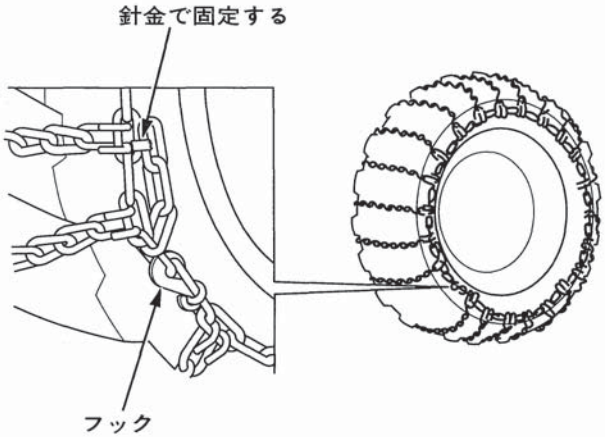


3．車輪をチェーンのかかる位置に移動します。

・前輪に装着するときは前進し、後輪に装着するときは後退して移動します。



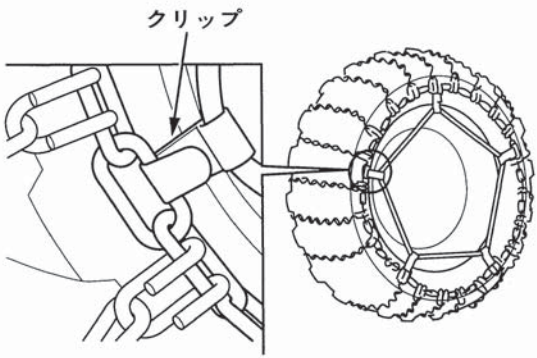
4．チェーンをタイヤに巻き付けていっぱいに引きます。内側のフックを先に連結して次に外側のフックを連結します。



取扱いのポイント

外側のフックを連結してチェーンが余った場合は、ボディなどに当たるのを防ぐために針金で固定します。

5．チェーン バンドのクリップを外向きにしてチェーンを張ります。



エンジンをかける前に点検しましょう

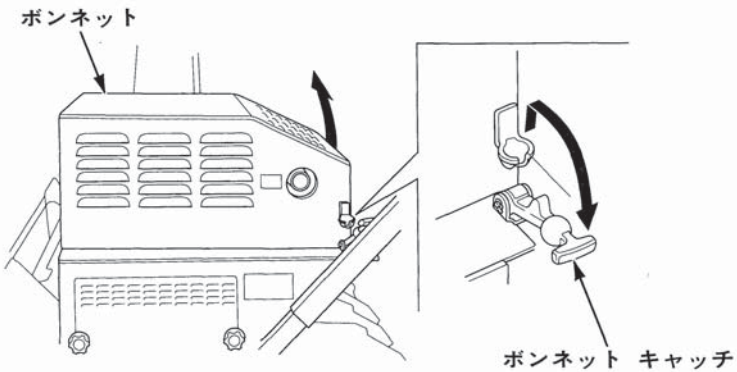
⚠警告

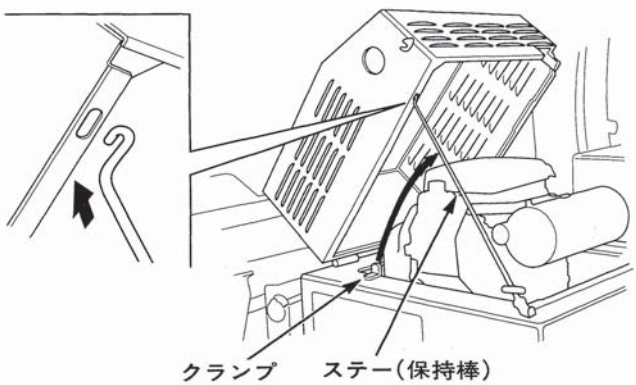
点検は平坦な場所でエンジンを水平にし車体部、除雪部のエンジンを止めて行ってください。誤って除雪部のエンジンがかからないように点火プラグ キャップをはずして行ってください。

ボンネットの開けかた、閉めかた

ボンネット キャッチを上に引き外し、ボンネットを引き上げステー(保持棒)を確実にかけて固定します。

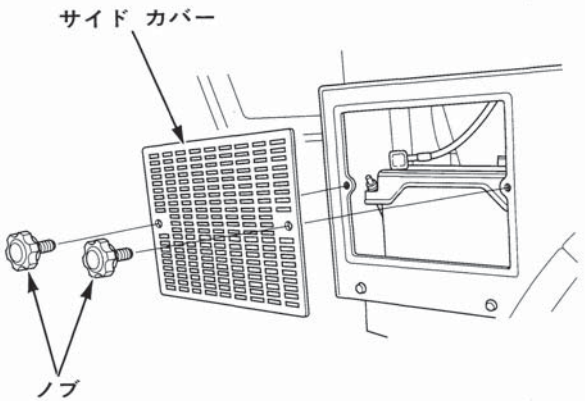
閉めるときは、ステーを外しクランプに納め、ボンネットを静かに閉じ、ボンネット キャッチを上に引き上げ金具に確実にセットしてください。





サイド カバーの取外し、取付け

取外しは、ノブを左に回しゆるめ、サイド カバーを取外します。
取付けは、ノブの取付け位置を合わせノブを右に回して確実き締付けてください。



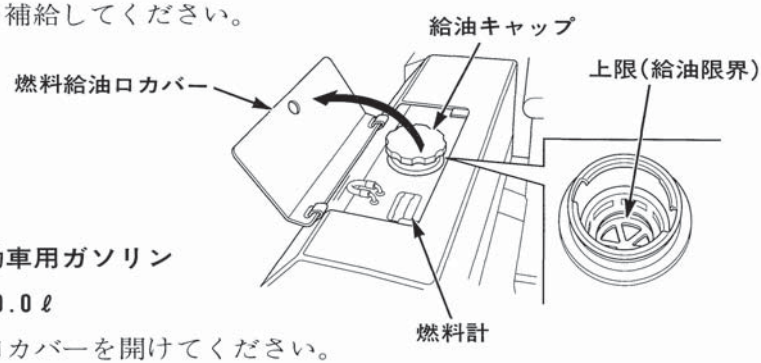
ガソリンの点検

⚠注意

車体部と除雪部では使用する燃料が違います。
故障の原因になりますので十分注意してください。
車体部：軽油(ディーゼル エンジン)
除雪部：ガソリン(ガソリン エンジン)

点　検

燃料計の針が**"満"**の位置にあるか確認します。燃料計の針が**"空"**に近づいたら早めに燃料を補給してください。



補　給

使用燃料：**自動車用ガソリン**

タンク容量：**20.0ℓ**

1．燃料給油口カバーを開けてください。

2．給油キャップを外し、図の位置(給油限界)を超えないように補給します。

3．補給後、給油キャップを完全に締付け、カバーを閉めてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
- **エンジンを停止してください。**
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**
- **燃料は注入口の口元まで入れず給油限界を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。**

取扱いのポイント

除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。

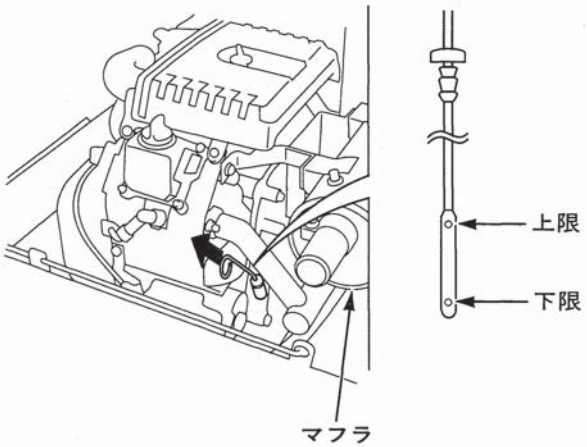
エンジン オイルの点検

点検

⚠警告

エンジン オイルの点検はエンジンやマフラが冷えているときに行ってください。エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラの温度が高くなっており、触れると火傷をする恐れがあります。万一、エンジンが暖まっている状態で点検する場合は、丈夫な手袋をしてマフラに触れないように注意して行ってください。

1．除雪部を水平にしてオイル レベル ゲージの回りを清掃します。
2．オイル レベル ゲージを外し、ゲージ部のオイルを拭取ります。
3．オイル レベルを図の向きで押込み、オイル レベル ゲージの上限までオイルがあるか点検します。不足している場合は新しいオイルをオイル レベル ゲージの上限まで補給します。汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は57、58頁参照）

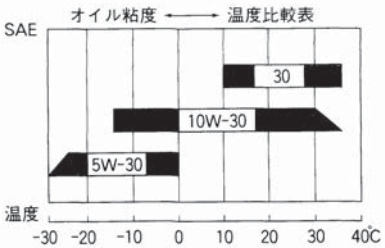


補給

オイル給油キャップを外し、新しいオイルをオイル レベル ゲージの上限まで補給します。補給後オイル レベル ゲージ、給油キャップを確実に取付けます。

推奨オイル：

（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
ホンダ純正汎用寒冷地オイル
(SAE 5W-30)またはAPI分類
SE、SFまたはSG級相当の
SAE5W-30エンジン オイル。



汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は57、58頁参照）

取扱いのポイント

キャップは、確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れます。

エア クリーナの点検

1．蝶ボルトを外し、エア クリーナ カバーを取外します。

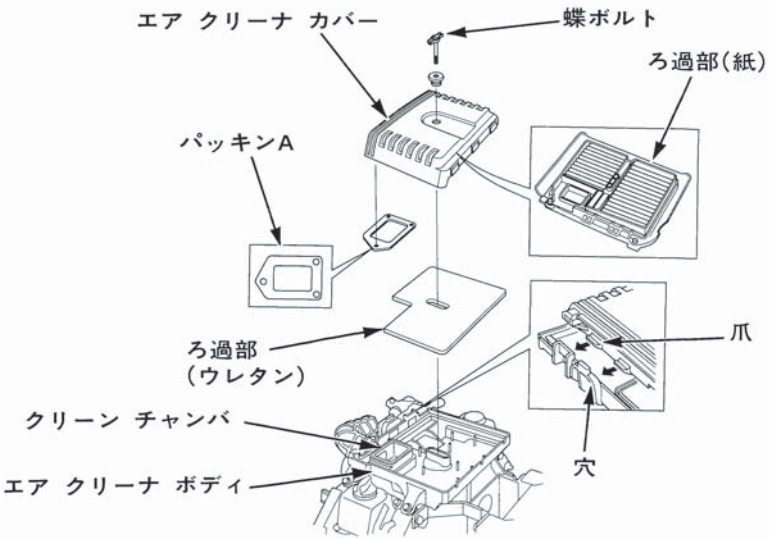
取扱いのポイント

クリーン チャンバ内にホコリやゴミを落とさないように注意してください。キャブレータの詰まりなどの原因になります。

2．ウレタン製ろ過部、およびエア クリーナ カバー裏側の紙製ろ過部の汚れを点検します。

・汚れのひどい場合は、ろ過部(ウレタン、紙)の清掃をします。(清掃方法は59頁参照)

・ろ過部(ウレタン、紙)が汚れているとエンジン性能が低下します。



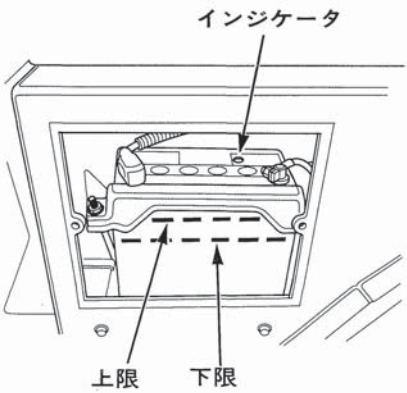
3．エア クリーナ カバーの爪をコントロール カバーの穴に差込み、エア クリーナ カバーを確実に取付けます。

4．蝶ボルトを締付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、カバーやろ過部(ウレタン、紙)が取付けられていない場合は、エンジン耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーやろ過部(ウレタン、紙)は確実に取付けてください。

バッテリの点検



点検

サイド カバーを取外します。(34頁参照)

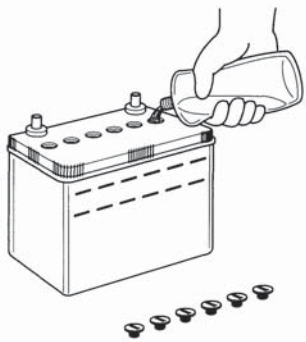
バッテリの液面が各槽とも**上限**(UPPER・LEVEL)と**下限**(LOWER・LEVEL)の間にあるか点検してください。

同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。

バッテリの状態(比重、液量など)をインジケータで確認することができます。バッテリに貼ってあるインジケータのラベルを見て確認してください。

補給

バッテリ液が少ないときはバッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液(蒸留水)を**上限**(UPPER・LEVEL)まで補給します。バッテリの取外し、取付けは65頁を参照してください。



⚠警告

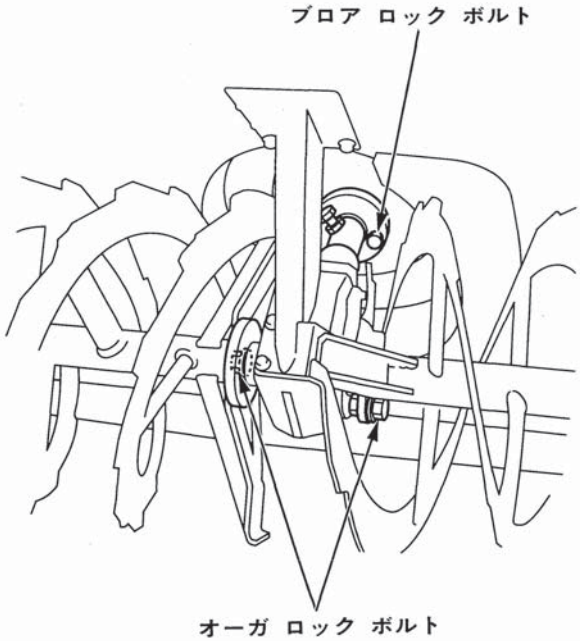
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接解などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。長期間保間中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ、ブロア ロック ボルトの点検

オーガ、ブロア ロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。
ロック ボルトは、石のかみ込み等の異常な負荷が加わった際に、除雪部の損傷を防ぐ為に折れるしくみになっています。
もし折れている場合は67頁の手順に従って交換してください。



除雪クラッチ スイッチの点検・シート バー スイッチの点検

除雪クラッチ スイッチが正しく作動するか点検します。異常がある場合は直ちにお買いあげ販売店へ連絡し、点検・整備を受けてください。

⚠警告

点検は除雪部エンジンを始動し、オーガを動かして点検します。
点検する前に本機の周囲に人や障害物がないことを確認してください。また投雪口が、人や窓ガラスなどの方向に向いていないことを確認してください。

・除雪クラッチ スイッチの点検

①シート バーをセットし、車体部のエンジンを始動して除雪部を少し地面から上昇させます。
②車体部のエンジンを停止します。
③除雪部エンジン スイッチを**〝運転〟**の位置にします。（エンジンは始動しないでください。）
④除雪クラッチ スイッチを押して**〝入〟**にします。（グリーンのランプが点灯）
⑤④の状態で除雪部エンジン スイッチを**〝始動〟**の位置にし、除雪部エンジンが始動しないことを確認します。
⑥除雪クラッチ スイッチを押して**〝切〟**にし、除雪部エンジンが始動することを確認します。
⑦除雪部エンジンが運転中に除雪クラッチ スイッチを押して**〝入〟**にしたとき、正常にオーガが回転することを確認します。

・シート バー スイッチの点検

①シート バーをセットします。
②除雪部エンジンを始動します。
③除雪部エンジン運転中にシート バーを解除し、除雪部エンジンが停止することを確認します。

その他の点検

次の点検も忘れずに行ってください。

1．各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2．各部の作動状態
3．異常個所……前日悪かった所はないか

除雪部エンジンのかけかた

⚠警告

屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
エンジンは平坦な場所で始動してください。急な坂道でステアリング レバーを〝中立〟の位置にすると本機が空走する場合があります。

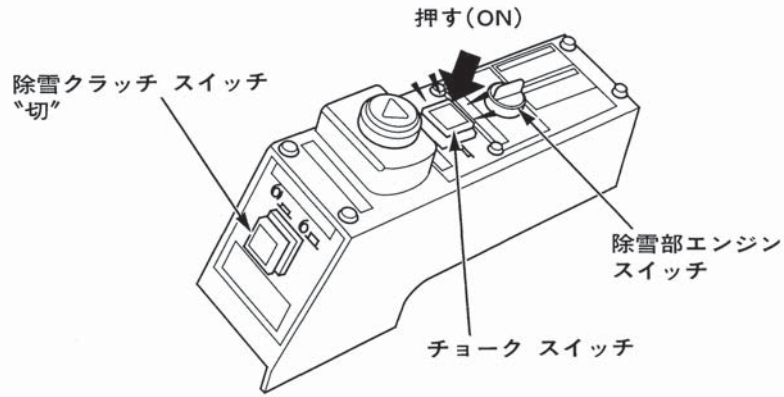
1．シュート カバーが確実にセットされていることを確認してください。

2．運転席に確実に着座し、シート バーをセットします。

取扱いのポイント

シュート カバー、シート バーが確実にセットされていないと除雪部エンジンは始動しない機構になっています。

3．除雪クラッチ スイッチが**〝切〟**の位置になっていることを確認し、チョーク スイッチを押してONにします。

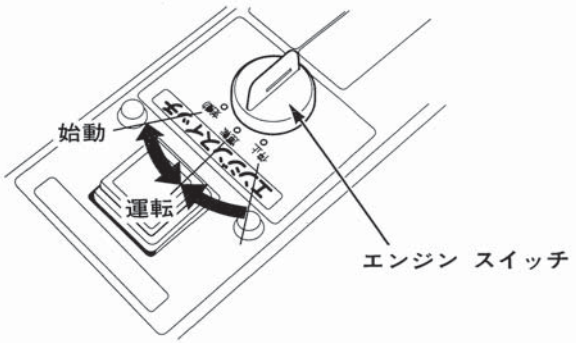


・除雪部エンジン スイッチを**〝運転〟**の位置にすると、チョークが作動(ON)しているとき、スイッチ内のランプ(オレンジ)が点灯します。除雪クラッチ スイッチが**〝切〟**の位置になっている場合は、除雪部表示パネル(右側、上部)の除雪クラッチ「切」表示ランプ(オレンジ)が、点灯します。

取扱いのポイント

除雪クラッチ スイッチを〝切〟の位置にしても除雪クラッチ「切」表示ランプ(オレンジ)が点灯しない場合は、お買いあげ販売店で点検を受けてください。

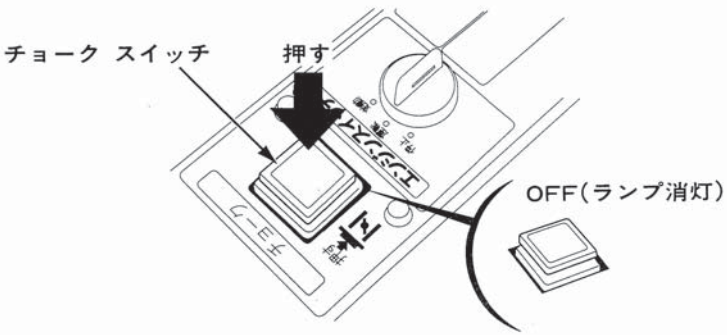
4．エンジン スイッチを〝**始動**〟の位置まで回し、スタータをまわします。エンジンが始動したらスイッチから手を離してください。〝**運転**〟の位置に戻ります。



取扱いのポイント

スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動をしてください。

5．始動後、チョーク スイッチを押してOFF(ランプ消灯)にします。



運 転 操 作 の し か た

除雪をする前に必ず〝安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう〟の項目をよくお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- **除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴など防寒用の身支度をしてください。**
- **除雪機を運転するときは、必ずシート ベルトを着用し、シート バーを確実にセットしてください。**
- **キャビン内には工具など物を持ち込こまないでください。ペダルやレバーなどにはさまり、正しい操作ができなくなる場合があります。**
- **運転席への乗り降りは、右側から行ってください。左側から乗り降りすると足を踏み外してケガをしたり、電気配線を損傷する可能性があります。**

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちに車体部、除雪部のエンジンを停止し、お買いあげ販売店に連絡してください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業するため、必要に応じてソリ、オーガ ハウジング高さを調節してください。

調節は調節基準表を目安にしてください。(47頁参照)

1．ソリの調整

除雪する路面の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1．本機を平坦な場所に置きます。

2．チルト ペダル(右側)の下側(かかと)を踏み、除雪部を後傾(最大)させます。

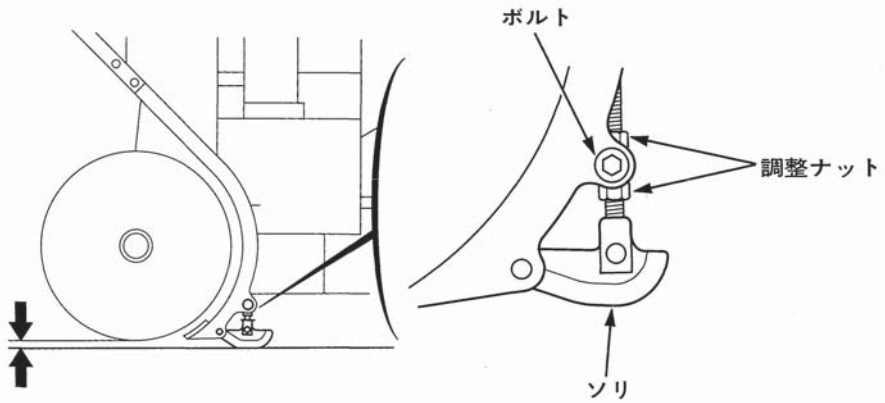
3．リフト アーム ペダル(左側)の上側(つま先)を踏み、除雪部を下降させ接地させます。

4．車体部、除雪部のエンジンを停止します。

⚠警告

ソリを調節するときは、必ず車体部、除雪部のエンジンを停止し誤って除雪部のエンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを外して行ってください。

5．除雪する路面の状態に合わせて、ボルトをゆるめソリの位置を調整します。



- ソリは左右同じ高さに調節してください。
- 調節後は必ずボルト、ナットを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

2．除雪部の高さと傾きの調節

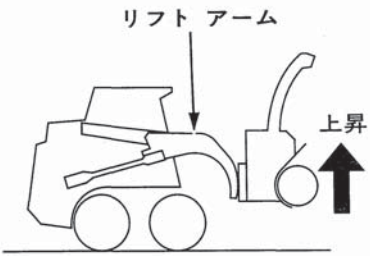
除雪部の高さと傾きを無段階に調節することができます。
路面の状態に応じて除雪部を接地させるか、さらにくい込ませるかあるいは少し浮かせるかを決め、リフト アーム ペダル(左側)で高さ、チルト アーム ペダル(右側)で傾きを調節します。

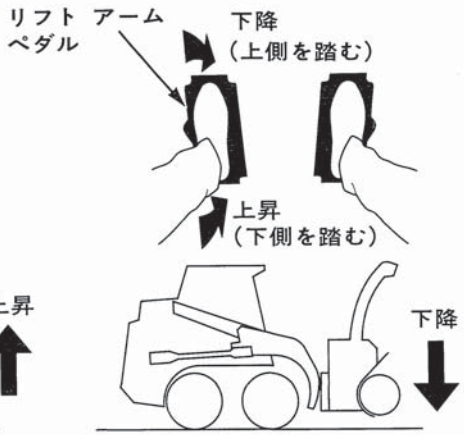
⚠警告

- **除雪部の高さ、傾きを調整するときは、必ず本機を停止させ、除雪部の回転を停止させてから行ってください。**
- **除雪部を高く上昇させたまま走行、旋回すると転倒するおそれがあります。**

高さの調節

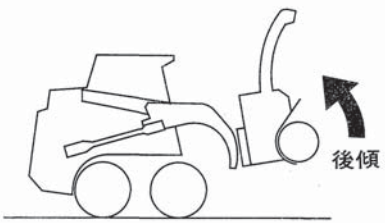
ペダルの下側(かかと)を踏むと除雪部が上昇します。ペダルの上側(つま先)を踏むと除雪部が下降します。

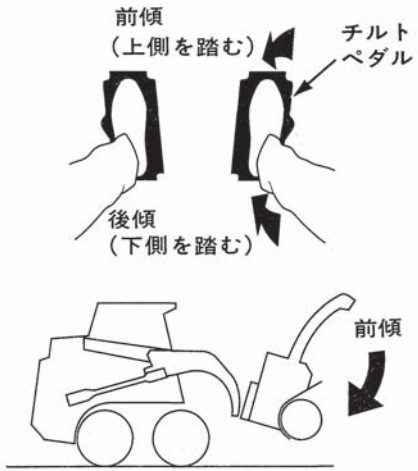




傾きの調節

ペダルの下側(かかと)を踏むと除雪部が後傾します。ペダルの上側(つま先)を踏むと除雪部が前傾します。





●調整基準表(目安)

	※固雪除雪	一般除雪	凸凹路面除雪	仕上げ除雪	段切り(食い込み)
オーガ ソリ	「上限」位置	調節代 「中」位置	調節代「下限」 まで下げる	「中」位置	調節代 「上限」まで上げる

→※硬い地面が出た条件での作業時では除雪部に悪影響を与えるおそれがありますので必ず雪上で使用されるようにお願い致します。

3．始動

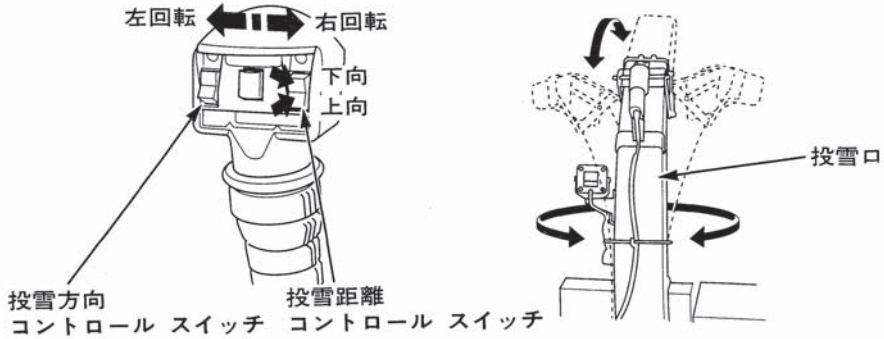
車体部の取扱説明書に従って、車体部エンジンを始動します。除雪部エンジンのかけかた(42頁参照)に従って、除雪部エンジンを始動します。

4．運転操作

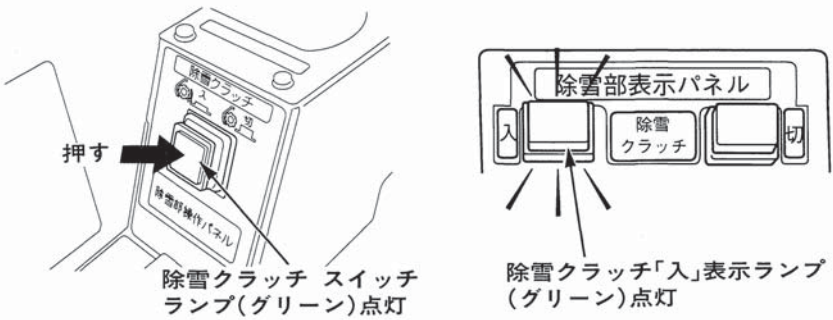
―1．シュータ コントロール スイッチで投雪距離と方向を調節します。

⚠注意

投雪距離や方向を変えるときには人や窓ガラス等に注意して行ってください。



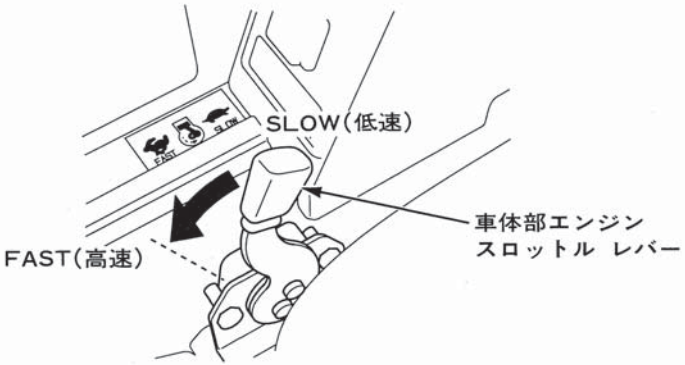
―2．除雪クラッチ スイッチを押して〝入〟の位置にし、オーガとブロアを回転させます。



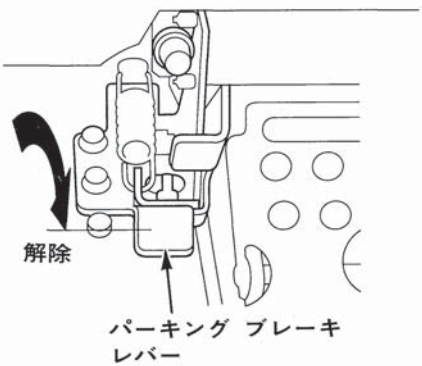
⚠注意

除雪クラッチ スイッチを押し〝入〟するとオーガとブロアが回転します。周囲の安全を十分に確認してください。

―3．ステアリング レバーが〝**中立**〟の位置にあることを確認し、車体部エンジン スロットル レバーを作業に適した位置に合わせます。



―4．パーキング ブレーキを〝**解除**〟し、ステアリング レバーをゆっくり操作して、除雪作業を行ってください。
ステアリング レバーの操作方法(本書17頁参照)は、詳しくは、車体部の取扱説明書の運転操作説明の章を参照してください。





5．除雪のしかた

除雪作業は除雪部のエンジンの回転を落さず行うことが重要です。雪による負荷に合った適切な車速で作業する必要があります。除雪作業を行うときは、ステアリング レバーをゆっくりと操作してください。ステアリング レバーの移動量を小さく操作して車速を下げても除雪部エンジン回転(除雪部表示パネル部の回転計を確認してください。)が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

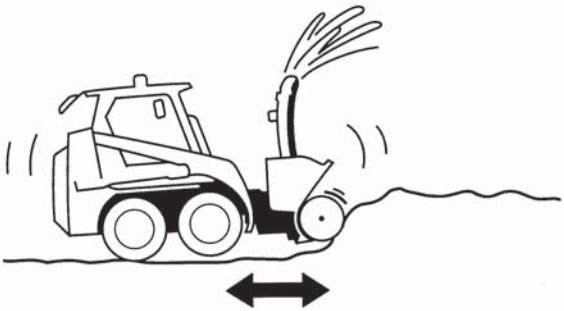
●除雪幅を狭くする方法

車速を下げても除雪部にかかる負荷が大きい場合(除雪部のエンジン回転が下がり、雪が２～３mしか飛ばないような状態は負荷のかけすぎです。)には除雪部にかかる雪幅を狭くして行ってください。



●前後進除雪の方法

固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



●**断続除雪の方法**

深い雪や重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

1．除雪部エンジン回転が回復するまで、ステアリング レバーを**〝中立〟**にします。（除雪機の走行を停止させます。）

2．除雪部に雪がなくなり、除雪部エンジン回転が回復したらステアリングレバーをゆっくり操作します。

3．再び除雪部エンジン回転が低下する場合は、１～２を繰り返して行います。

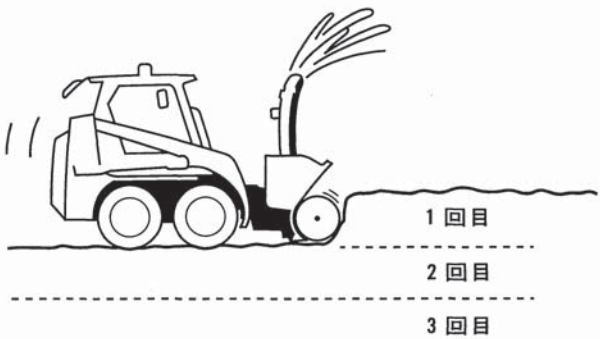


●**段切除雪の方法**

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪してください。

・リフト アーム ペダル（左側）で除雪部の高さを調節します。

・チルト ペダル（右側）で除雪部の傾き（食い込み角度）を調節します。

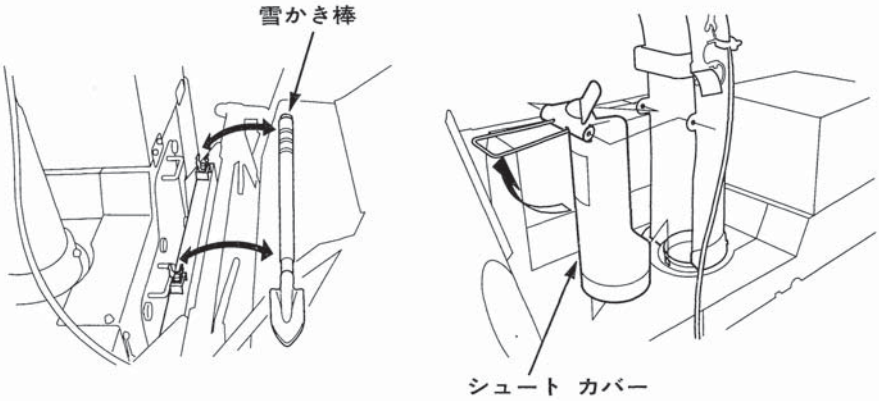


●投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

投雪口に詰まった雪を除去するときは、車体部と除雪部のエンジンを停止し、エンジン スイッチ キーを抜き誤ってエンジンが始動しないようにプラグ キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。
エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1．除雪作業中、投雪口に雪が詰ったときは、シュート カバーを外し、雪かき棒で詰った雪を除去します。



2．除雪後はシュート カバーを確実にセットし、雪かき棒を元の位置にセットしてください。

取扱いのポイント

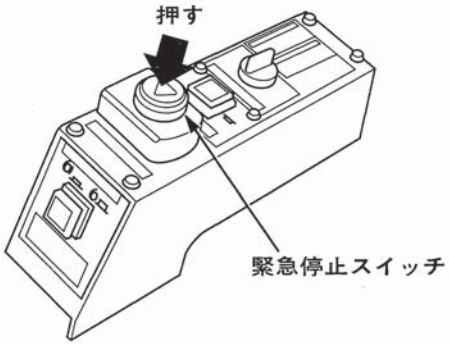
シュート カバーが確実にセットされないと除雪部エンジンが始動しない機構になっています。

除 雪 部 の 止 め か た

●緊急に除雪部エンジンを停止する場合

・緊急停止スイッチ(ボタン式)を押すと除雪部エンジンのみを停止します。

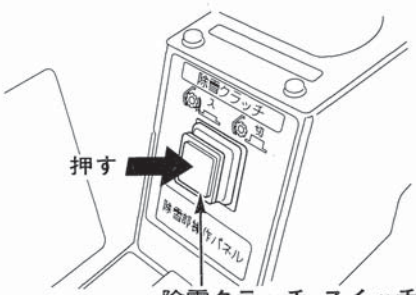
・シート バーを解除(持ち上げる)すると除雪部エンジンのみ停止します。

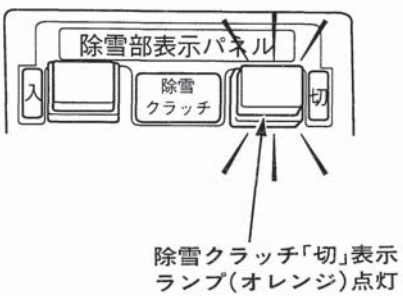


・緊急停止をしたあと再始動するときは、シート バーを確実にセットし、除雪クラッチ スイッチを〝**切**〟の位置にして行ってください。

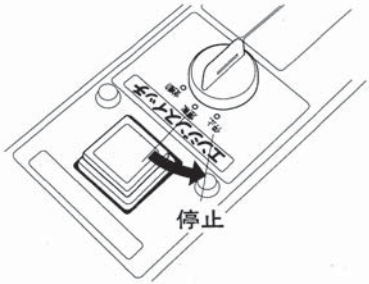
●通常停止の場合

1．ステアリング レバーを〝**中立**〟(停止)の位置にし、除雪クラッチ スイッチを押して〝**切**〟の位置にします。

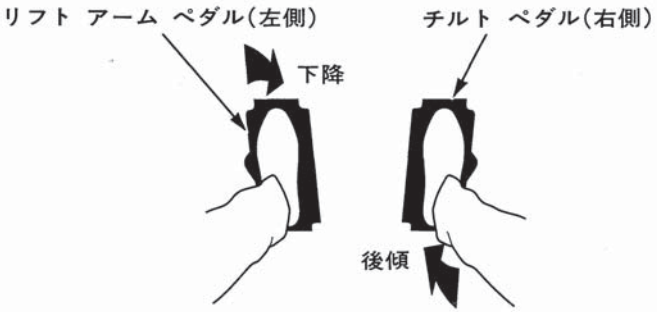




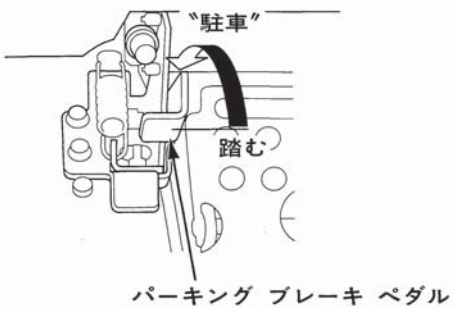
2．除雪部エンジン スイッチを〝**停止**〟の位置にし、キーを抜きます。



3．チルト ペダル(右側)の下側(かかと)を踏み、除雪部を後傾させます。リフト アーム ペダル(左側)の上側(つま先)を踏み、下降させ除雪部を完全に路面に接地させます。



4．パーキング ブレーキを〝**駐車**〟(ON)の位置にします。

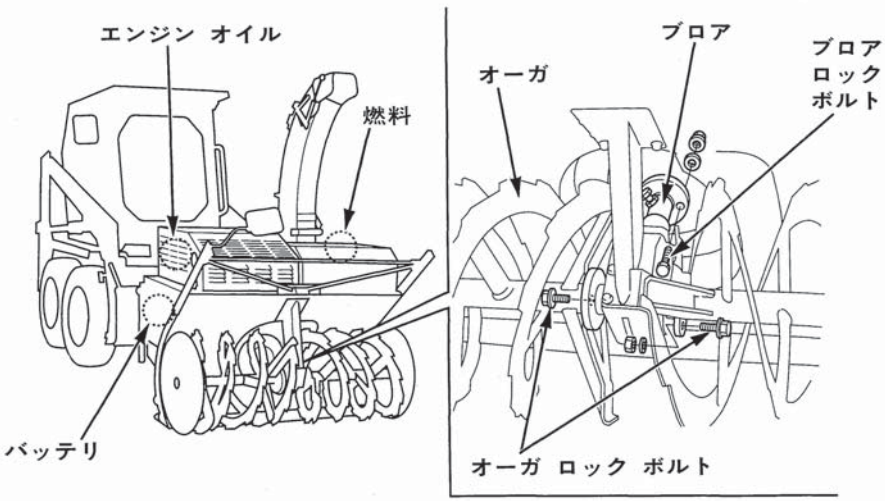


定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

●エンジン オイル……規定量入っているか。
　　漏れはないか。
●燃料……残量
●各部の締付け……ゆるみ、がたはないか。
●バッテリ……バッテリ液の点検(39頁参照)
●ソリ……ソリの高さ調整(45頁参照)
●シュータ コントロール スイッチ、除雪部の高さ、傾き調節……作動の確認。
●オーガ、ロック ボルト、ブロア、オーガ ハウジング等の損傷やゆるみについては、特に点検を行ってください。
●前日までの異常箇所はなかったか。
●その他異常を感じたら、ただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきました除雪機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検項目 ＼ 点検時間		作業前 点検	初回 20時間目	除雪時期 初めの点検	(毎年) 終りの点検
エンジン オイル	点検	○			
	交換		○	(100時間毎) ○	
オーガ、ブロア ロックボルト	点検	○			
オーガ ミッション オイル	点検			○	
	交換	※3年又は300時間毎			
バッテリ液	点検	○			
	比重			○※	
点火プラグ	点検			◎	
燃料チューブ	点検			○	
	交換	※4年毎			
エア クリーナ	清掃			○	
	交換	1年毎又は300時間毎交換(紙製ろ過部)			
オーガ ベルト、オーガ ブレーキ	点検、調整			◎※	
格納時の各部防錆部	塗布				○
燃料フィルタ	点検			○	
	交換	※2年又は400時間毎交換			
キャブレータ、燃料タンク	燃料抜き				○※
燃料タンク	清掃	※4年又は500時間毎			
オイル フィルタ	交換	※1年毎又は200時間毎交換			
各部締付け	増締め				○
吸排気弁すき間	点検、調整	※1年又は300時間毎			
各部の作動				○	

◎印のついた項目は消耗品であり使用条件により交換時期がかわります。損傷等がある場合には、早めに交換してください。

※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。

やさしい点検・整備

⚠警告

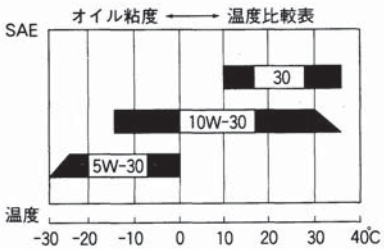
点検・整備は平坦な場所で必ず車体部と除雪部のエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン スイッチ キーを外し、点火プラグ キャップを取外して行ってください。

エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：年一回除雪時期の初め、または100時間運転時



《推奨オイル》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）

ホンダ純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジンオイル。

《規定量》1.2ℓ（オイル フィルタ交換時：1.5ℓ）

交換のしかた

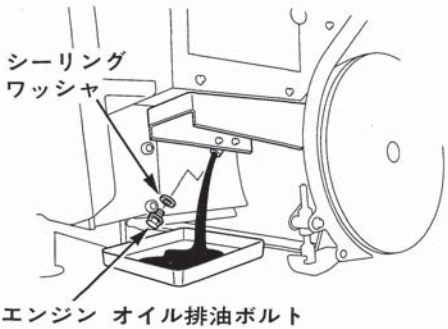
⚠警告

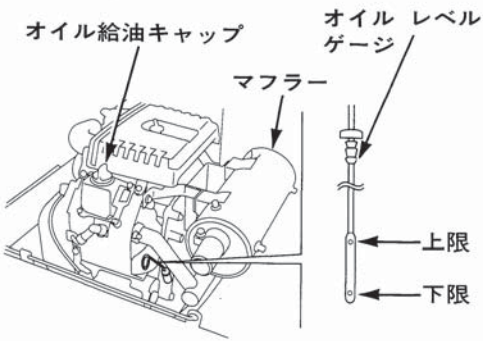
エンジン オイルの交換はエンジンやマフラが冷えているときに行ってください。エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や油温が高くなっており、触れると火傷をするおそれがあります。

1．オイル給油キャップを外します。

2．排油ボルト、シーリング ワッシャを外して、オイルを抜きます。

3．排油ボルトをきれいにして、新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。





4．新しいエンジン オイルをオイル レベル ゲージの上限まで注入します。

5．注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。

取扱いのポイント

- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **外したシーリング ワッシャを再使用するとオイルがにじみ出ることがあります。新しいシーリング ワッシャを使用してください。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。**

エア クリーナの清掃

エア クリーナが目詰まりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃、交換（紙製ろ過部のみ）をしましょう。

〈清掃時期〉　年一回除雪時期の初め

〈交換時期〉　紙製ろ過部のみ300時間運転毎または１年毎

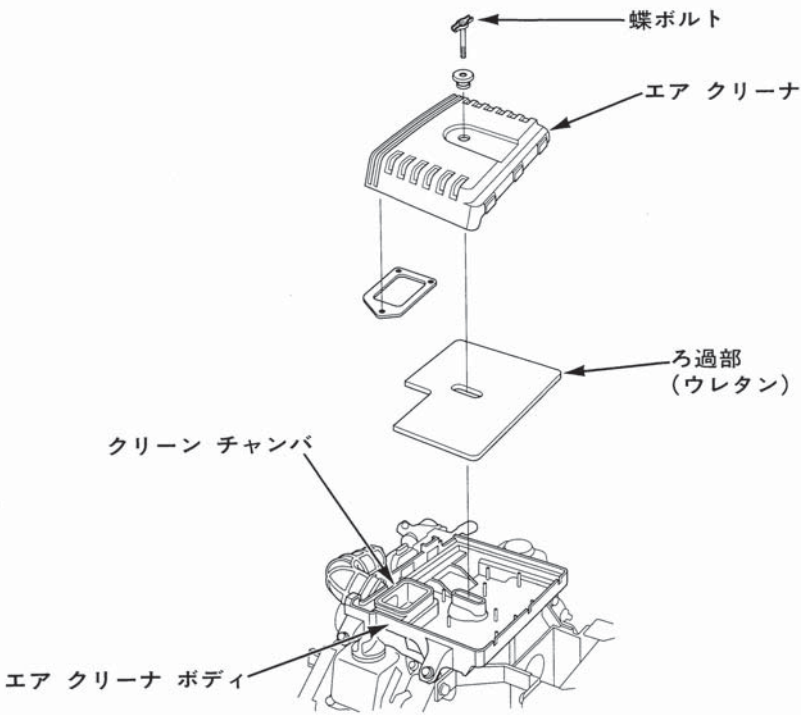
清掃のしかた

１．蝶ボルトを外し、エアクリーナ カバーを取外します。

取扱いのポイント

クリーン チャンバ内にホコリやごみを落とさないように注意してください。

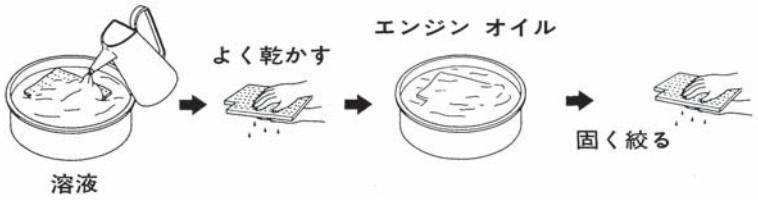
２．ろ過部（ウレタン）を取外します。



3．ろ過部（ウレタン）を取外し洗い油で洗浄し、固くしぼってからエンジン オイル(ウルトラ ネオ汎用機用—SAE30、またはウルトラ-U<2輪車用>—SAE10W-30）等に浸し、ウレタンにオイルをつけすぎないように固く絞ります。

⚠注意

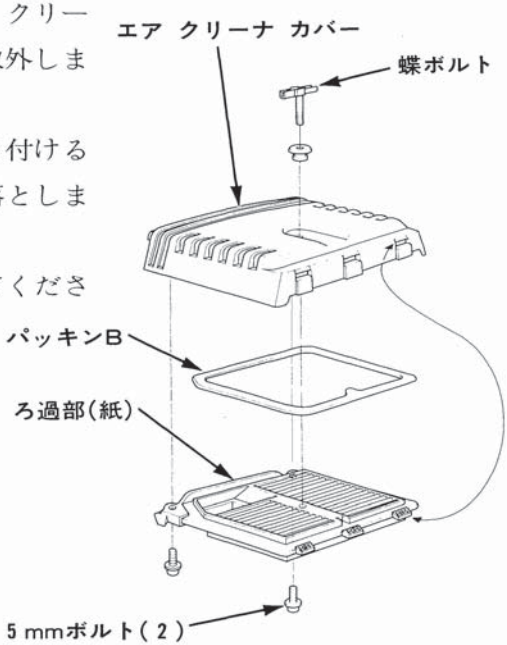
洗い油は引火しやすいので、タバコをすったり、炎などを近付けないでください。火災を起こす可能性があります。
換気の良い場所で洗浄を行ってください。



4．5mmボルト2本を外し、エア クリーナ カバーからろ過部（紙）を取外します。

5．ろ過部（紙）を圧縮空気を吹き付けるか、回りを軽く叩いて汚れを落とします。

・汚れがひどい場合は交換してください。



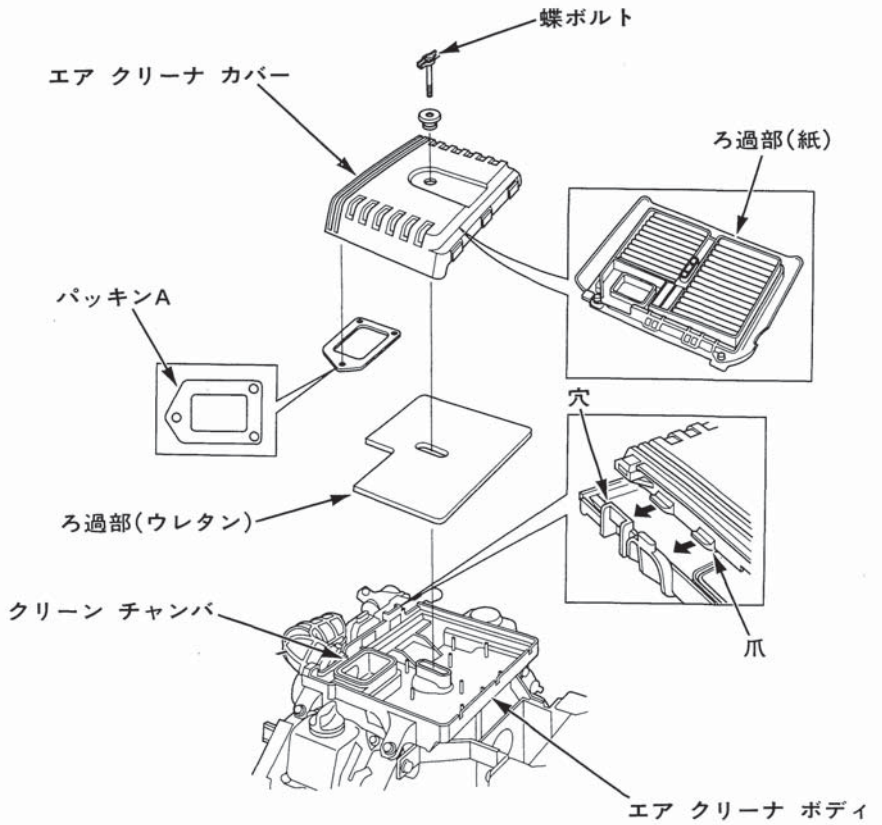
6．エア クリーナ カバーにパッキンA、Bおよびろ過部（紙）を取付けます。

7．ろ過部（ウレタン）をクリーン チャンバに取付けます。

8．エア クリーナ カバーの爪をコントロール カバーの穴に合わせエア クリーナ カバーを取付け蝶ボルトを締付けます。

取扱いのポイント

カバーの取付けが不完全であったり、ろ過部(ウレタン、紙)、パッキンA、Bがずれて取付けられた場合、またカバー、パッキン、ろ過部が取付けられていない場合はエンジンの耐久性に著しく悪影響をあたえます。カバーなどは確実に取付けてください。



点火プラグの清掃、調整

点火プラグの電極が汚れていたり、摩耗していると完全な火花がとばなくなり、エンジン不調の原因となります。

⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

取扱いのポイント

- **故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。**
- **点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。**
- **点検、調整後は点火プラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因となります。**

〈清掃時期〉　100時間運転毎

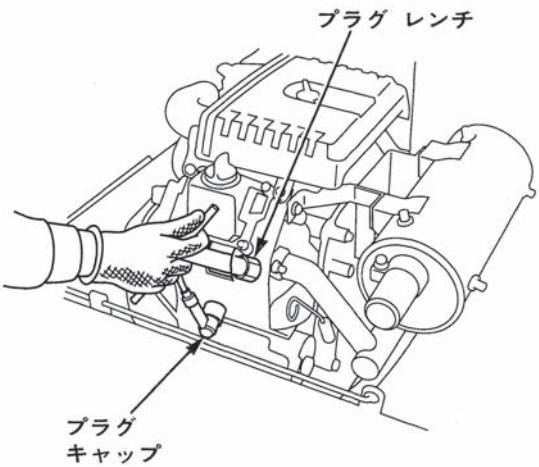
〈指定プラグ〉　BPR 6 ES（NGK）

W20EPR-U（DENSO）

清掃のしかた

1．点火プラグ キャップを点火プラグから外します。

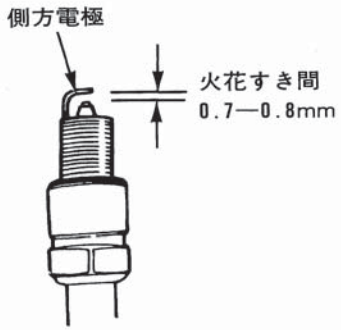
2．プラグ レンチで点火プラグを取外します。



3．点火プラグを清掃します。
清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店へお申しつけください。プラグ クリーナが無いときは針金かワイヤブラシで汚れをおとしてください。

4．側方電極をつめ、火花すき間を下記寸法に調整します。
火花すき間：0.7～0.8mm

5．取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けます。



バッテリ

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐蝕は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤ ブラシかサンド ペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発のおそれがあります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚に付くとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。長期間保間中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER・LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

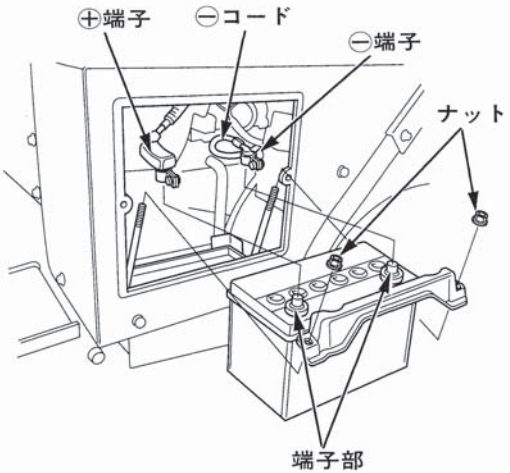
バッテリの取外し・取付け

1．サイド カバーを取外します。(34頁参照)

2．バッテリ㊀端子の接続を外します。

3．バッテリ㊉端子の接続を外します。

4．ナットを外して、バッテリを引き出します。



5．逆の手順で取付けます。

フューエル ストレーナの点検

燃料ポンプとキャブレータの間にフューエル ストレーナが取付けてあります。フューエル ストレーナの中に水がたまったり、目詰まりすると、出力不足や始動不良をおこします。定期的に点検してください。

〈点検時期〉 100時間運転毎または除雪期初め

1．フューエル ストレーナを点検し、中に水や沈殿物がある場合はお買いあげ販売店で交換してください。

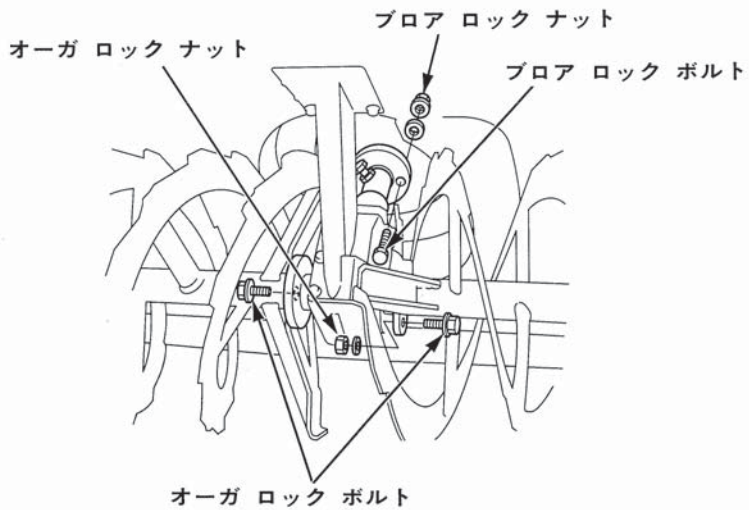


除雪部の点検

オーガ、オーガ ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。
オーガ、ブロアのロック ボルトのゆるみ、折れを点検します。
もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック ボルトと交換してください。

ロック ボルトの交換方法

1．本機を平担な場所に水平に止め、駐車グレーキ レバーを**〝駐車〟**にしてください。
2．除雪クラッチ スイッチを**〝切〟**にしてください。
3．リフト アーム ペダルでオーガをいちばん下まで下げてください。
4．車体部、除雪部のエンジン スイッチを**〝停止〟**にしエンジン スイッチ キーを外し、各回転部が停止していることを確認してください。
5．オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金等)を取除きます。
6．除雪部を点検してください。
7．折れたロック ボルトを取除き、新しいロック ボルト、ナットと交換し、確実に締付けてください。



☆新しいロック ボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

ヒューズについて

ヒューズが切れたらその原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となります。絶対に使用しないでください。

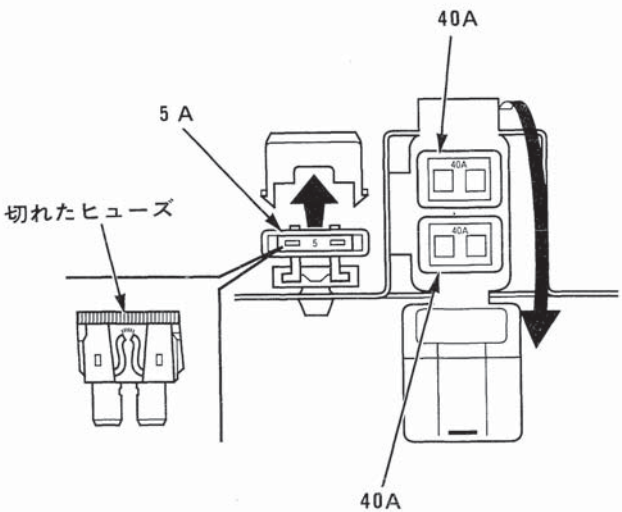
《交換のしかた》

1．サイド カバーを取外してください。(34頁)

2．切れたヒューズを新品のヒューズ(5A)と交換してください。

☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。

3．40Aヒューズの交換は、お買いあげ販売店で修理を受けてください。



各部の作動点検

年一回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

・エンジンの始動、停止
・レバー類の作動
・スイッチ類の作動
・その他の可動部分の作動

運　搬　す　る　と　き　は

アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

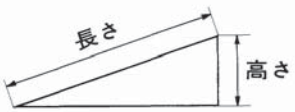
《積み降ろしをする前に》

1．積み降ろしは平担な場所で行ってください。

2．使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。

本機の総重量：約2,050kg

3．下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5m	3.0m	3.5m
地面からアユミ板までの高さ	50cm	60cm	70cm

4．幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。

5．車体部の燃料が十分あるか確認してください。〝**空**〟(○)に近いとエンストしてしまうことがあります。

《手順》

1．アユミ板の幅をタイヤの幅に合わせます。

2．車体部のエンジンを始動し、リフト アーム ペダル(左側)の下側(かかと)を踏み、アユミ板と除雪部が干渉しない程度に除雪部を上昇させます。

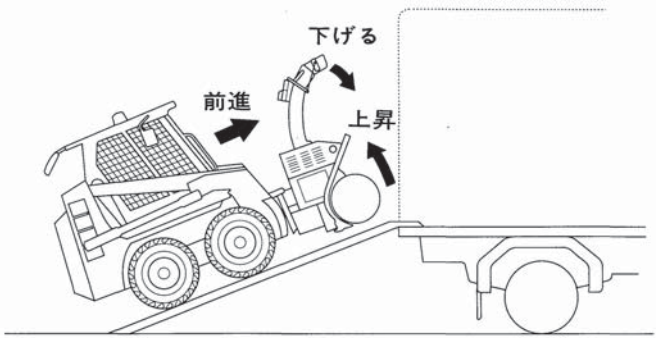
3．シュータ コントロール スイッチで投雪口を下までいっぱいに下げます。

4．ステアリング レバーをゆっくりと操作して十分に車速を落とし、前進でアユミ板を登ります。

5．除雪部が幌などに当たらないよう注意しながら除雪機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠注意

- **アユミ板の上を移動途中に、ステアリング レバーによる旋回(曲がる)操作を絶対に行わないでください。アユミ板から除雪機が落ちる場合があります。**
- **アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は、ステアリング レバーを〝中立〟にして再始動してください。**
- **車体部を単体でトラックに積むときは、後進でアユミ板を登ってください。前進で登ると転倒するおそれがあります。**



長期間使用しないときの手入れ

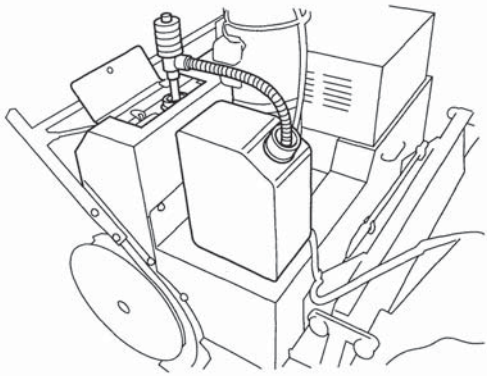
降雪シーズンも終わり長期保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

1．保管するときはエンジン スイッチ キーを外してください。

2．燃料タンク、キャブレータ(気化器)の燃料をぬきます。

〈ぬきかた〉

1．燃料タンク内の燃料を抜きます。



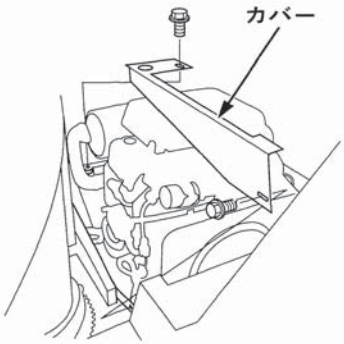
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **作業は風通しの良い場所で行い、燃料の付近でタバコを吸ったり炎など火気を近づけないでください。**
- **ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。**

2．キャブレータ内の燃料を抜きます。

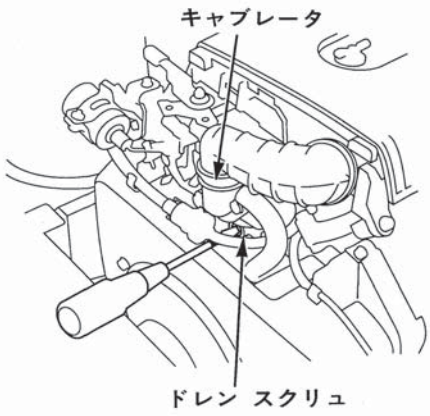
燃料は自然劣化します。必ず抜いてください。

—1．ボンネットを開けて除雪部エンジンの左側のカバーを取外します。



―2．キャブレータのドレン スクリュをゆるめ、燃料を除雪部エンジン左側のドレン ホースより容器に受けます。

―3．完全に燃料が抜けたら、ドレン スクリュを締めます。





3．バッテリの手入れ

保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください(65頁参照)。

長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6か月に一度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して補充電を行ってください。

充電器は市販の充電器(12V用)をご使用ください。

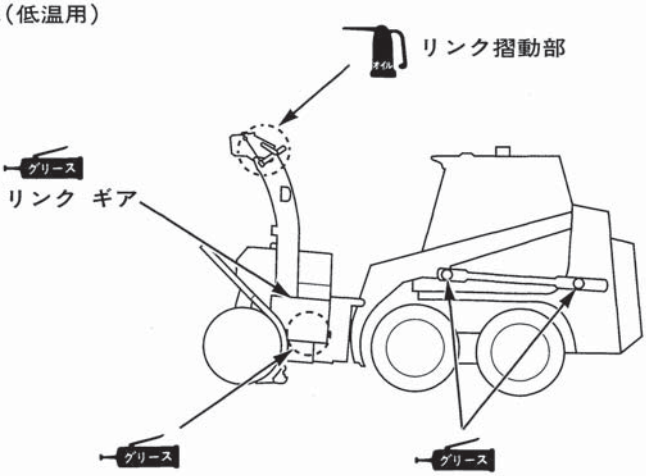
充電時間：4.5Aで約10時間(標準)

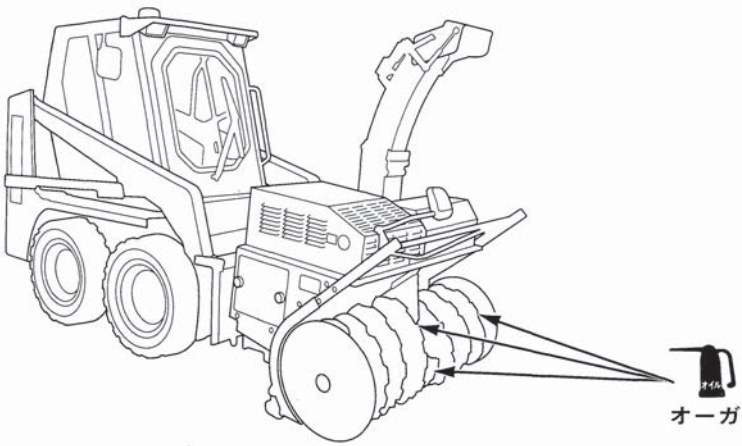
4．保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後回転部、摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。

：オイル(エンジン オイル 5 W-30、10W-30相当品)

：グリース(低温用)





故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ購入先へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。

1．始動方法は、取扱説明書通りですか？
2．ガソリンはありますか？
3．エンジン オイルは規定量ありますか？
4．バッテリ コードは確実に接続されていますか？
5．ヒューズは切れていませんか？
6．プラグ キャップは確実に取付けられていますか？
7．点火プラグのすき間は正しいですか？
8．点火プラグは汚れていませんか、または火花は出ていますか？

●プラグの火花確認手順

～1．点火プラグからプラグ キャップを2気筒とも取外します。
～2．点火プラグをエンジンから取外し、プラグ キャップに取付けます。
～3．プラグ穴から離れた場所で、プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。（感電を避けるためプラグ キャップ以外には触れないでください。）
～4．除雪部エンジン スイッチを始動の位置にしてエンジンを回転させます。そのときプラグの電極に火花が出るか確認してください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
- **換気の良い場所で行ってください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り良く乾かしてから行ってください。**
- **ガソリンに引火するおそれがあるのでプラグ穴の近くで火花確認をしないでください。またプラグ穴に手や顔を近づけないでください。**

・火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ購入先にお申しつけください。

主　要　諸　元

名　称	HSL2012
型　式	SZBD

エンジン

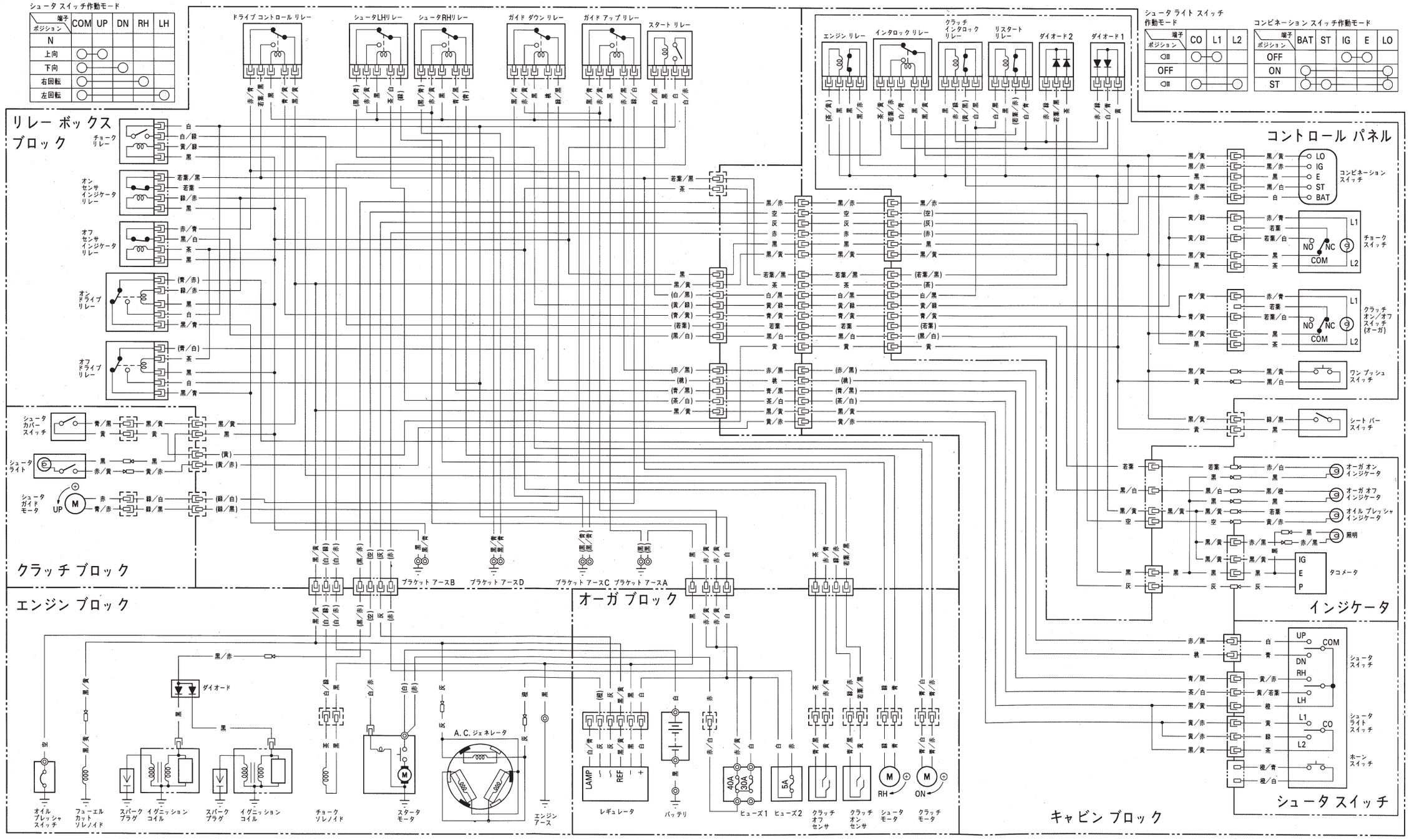
名　称	ホンダ GX620
最高出力	20PS/3,600rpm
排気量	614cm³
内径×行程	77×66mm
始動方式	セルフ スタータ
点火方式	トランジスタ マグネト点火
オイル容量	1.2ℓ（フィルター交換時1.5ℓ）
燃料タンク容量	20.0ℓ
点火プラグ	BPR6ES(NGK)．W20EPR-U(DENSO)

フレーム

全長	1,040mm（除雪部）、3,360mm（車体部含む）
全幅	1,250mm
全高	1,970mm
乾燥重量	375kg（除雪部）、約1,899kg（車体部含む）
除雪幅	1,250mm
除雪高	720mm
投雪距離	最大20m（雪質および投雪方向により異なります。）

諸元は予告なく変更することがあります。

配線図


シュータ スイッチ作動モード
端子 / ポジション
COM UP DN RH LH
N
上向
下向
右回転
左回転
ドライブ コントロール リレー
シュータLHリレー
シュータRHリレー
ガイド ダウン リレー
ガイド アップ リレー
スタート リレー
エンジン リレー
インタロック リレー
クラッチ インタロック リレー
リスタート リレー
ダイオード2
ダイオード1
シュータ ライト スイッチ 作動モード
端子 / ポジション
CO L1 L2
OFF
コンビネーション スイッチ作動モード
端子 / ポジション
BAT ST IG E LO
OFF
ON
ST
リレー ボックス ブロック
チョーク リレー
オン センサ インジケータ リレー
オフ センサ インジケータ リレー
オン ドライブ リレー
オフ ドライブ リレー
コントロール パネル
コンビネーション スイッチ
チョーク スイッチ
クラッチ オン/オフ スイッチ (オーガ)
ワン プッシュ スイッチ
シート バー スイッチ
オーガ オン インジケータ
オーガ オフ インジケータ
オイル プレッシャ インジケータ
照明
タコメータ
インジケータ
シュータ スイッチ
シュータ ライト スイッチ
ホーン スイッチ
シュータ カバー スイッチ
シュータ ライト
シュータ ガイド モータ
UP
クラッチ ブロック
ブラケット アースB
ブラケット アースD
ブラケット アースC
ブラケット アースA
エンジン ブロック
オーガ ブロック
ダイオード
A. C. ジェネレータ
オイル プレッシャ スイッチ
フューエル カット ソレノイド
スパーク プラグ
イグニッション コイル
スパーク プラグ
イグニッション コイル
チョーク ソレノイド
スタータ モータ
エンジン アース
LAMP
REF
レギュレータ
バッテリ
40A
30A
5A
ヒューズ1
ヒューズ2
クラッチ オフ センサ
クラッチ オン センサ
シュータ モータ
RH
クラッチ モータ
ON
キャビン ブロック

HONDA
本田技研工業株式会社
東京都港区南青山２－１－１

30798600
00X30-798-6000

Ⓢ Ⓝ 2009612